

社会福祉学科

社会福祉 専攻

1 年

科目名：医学一般				担当教員氏名：太田 雅也		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
2	1年次 前期	専門選択科目	講義	選択	社会福祉士基礎受験資格 選択必修	
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
社会福祉士として働く専門職が、心得ておかなければならない医学一般に関する知識について学ぶ。内容は、人の成長・発達と老化、人体の構造と機能、疾病、障害、リハビリテーション、健康と多岐に渡る。					・成長と発達 ・老化 ・人体の構造と機能 ・疾病 ・障害 ・リハビリテーション	
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 6. 9.		
A 知識・理解力		人体の構造と機能及び疾病と障害について体系的に理解し、知識を身に付ける。				
C 論理的思考力		知識を複眼的・論理的に分析し、表現できる。				
D 問題解決力		問題を固定し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、問題を解決する。				
G 倫理観		医学的倫理を知り、それに従って行動する。				
成績評価の基準と方法：以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： 100 %	レポート： %	発表： %	実技試験： %	その他： %		
特記事項：						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：第8回目と第15回目の授業時にテストを実施する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：適宜小テストを行い、採点し返却する。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①人の成長・発達と老化				【事前】人間の成長について考えてくる		
②身体構造と心身の機能(1) (身体の名称、四肢)				【事前】テキストを読んでもくる		
③身体構造と心身の機能(2) (心臓、腎臓、呼吸器)				【事前】テキストを読んでもくる		
④身体構造と心身の機能(3) (消化器、神経、体の調節)				【事前】テキストを読んでもくる		
⑤疾病の概要(1) (悪性腫瘍、脳血管障害、心疾患)				【事前】テキストを読んでもくる		
⑥疾病の概要(2) (生活習慣病、呼吸器疾患、消化器疾患、血管疾患)				【事前】テキストを読んでもくる		
⑦疾病の概要(3) (腎泌尿器疾患、目・耳の疾患、感染症)				【事前】テキストを読んでもくる		
⑧中間まとめ				【事前】①～⑦の復習する		
⑨疾病の概要(4) (神経疾患、先天性疾患、高齢者の疾患)				【事前】テキストを読んでもくる		
⑩障害の概要(1) (視覚障害、聴覚平衡機能障害、肢体不自由)				【事前】テキストを読んでもくる		
⑪障害の概要(2) (内部障害、知的障害、発達障害、認知症、精神障害)				【事前】テキストを読んでもくる		
⑫リハビリテーションの概要				【事前】テキストを読んでもくる		
⑬ICF				【事前】テキストを読んでもくる		
⑭健康のとらえ方				【事前】テキストを読んでもくる		
⑮期末まとめ				【事前】⑧～⑭の復習する		
使用テキスト： 新・社会福祉士養成講座1「人体の構造と機能及び疾病」 医学一般(保健医療SW資格取得用)				その他参考文献など： 「ぜんぶわかる 人体解剖図」(成美堂出版)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： 高齢者や疾病・障害を持った人に接するにあたり、医学・医療の最低限の知識を身に付ける必要があります。						

社会福祉学科

社会福祉 専攻

1 年

科目名: 社会学				担当教員 氏名: 中川 翔平		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	1年次	前期	専門選択科目	講義	選択	社会福祉士基礎受験資格 選択必修
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
私たちを取り巻く「社会」は、どのように成立しているのか? <社会的なもの>と<個人的なもの>とはどのような関係にあるのか? 私たちの日常生活とマクロな社会の構造や変容とはどのような関連をもつのか? 本講義では、社会学の基礎的な概念や理論を用いて、メディアで取り上げられるニュースや富山での事例を取り入れながら「社会」を理解する視座を涵養していく。						社会学、現代社会、行為と共同性、時間・空間・近代、構造化と秩序
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 5. 7. 8. 10	
A 知識・理解力			私たちが生きている社会がどのように成立しているか、その概要を理解できる。			
B 専門的技術			私たちが直面している様々な社会問題について、考え、整理し、自分なりに問題解決に向け挑戦できる。			
G 倫理観			社会にある多様な価値観に理解を深め、自分自身のスタンスを明確にして、また、他を尊重するための基礎的な土台を身に付けている。			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 70 %		レポート: %	発表: %	実技試験: %	その他: 30 %	
特記事項: 授業の「秩序」維持のため、開始15分経過後の入室を認めない。また、死語はもちろん携帯メールをみることも、授業を無効化するため見つけ次第退室してもらう。評価方法については初回に詳細を説明するので必ず出席されたい。欠席により不利益を蒙っても講師は関知しない。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 初回に詳細を説明する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 第8回にて中間テスト、第15回にて最終試験とする。課題は採点后コメントをつけ返却。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①ガイダンス: 社会学とは?						
②社会の諸類型				講義後、新聞で気になるニュースをチェックしておく		
③自己・相互行為・社会				配布資料の確認		
④支配の諸類型と権力・暴力装置				配布資料の確認		
⑤シンボリック相互行為論の世界				配布資料の確認		
⑥社会システム理論への誘い				配布資料の確認		
⑦中間振り返り				これまでの講義内容と資料の復習		
⑧国民国家とグローカリゼーション				これまでの講義内容と資料の復習		
⑨メディア・コミュニティ・コミュニケーション				これまでの講義内容と資料の復習		
⑩文化と再生産				これまでの講義内容と資料の復習		
⑪医療・福祉と自己決定				これまでの講義内容と資料の復習		
⑫家族とライフコース				これまでの講義内容と資料の復習		
⑬ジェンダーとセクシュアリティ				これまでの講義内容と資料の復習		
⑭格差と貧困/包摂と排除				これまでの講義内容と資料の復習		
⑮期末まとめ				これまでの講義内容と資料の総復習		
使用テキスト: 特になし。必要に応じてプリント配布。				その他参考文献など: 長谷川公一、浜日出夫、藤村正之、町村敬志編『社会学』有斐閣、2007年		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 普段から新聞やニュースを意識的にチェックしておいてください。 レポートの際、E-mailでの提出を指示する可能性があるため、受講生は予めメールアドレスを取得しておくこと(フリーメール可、携帯アドレス不可)。						

社会福祉学科

社会福祉 専攻

1 年

科目名：心理学				担当教員 氏名：竹ノ山 圭二郎		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	1年次	前期	専門選択科目	講義	選択	社会福祉士基礎受験資格 選択必修
授業科目の学習教育目標の概要：						キーワード
人に対する支援は一律のものではない。対人援助に関わる人は、「個人」を理解することが必要となる。心理学を学ぶことによって、人を理解しようとする態度と、人を理解するために必要な基礎知識とを身に付けることができる。						ストレス、感情、認知、社会、 発達、心理的支援
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 6.	
A 知識・理解力			心理学の基礎知識について理解している			
B 専門的技術			支援を必要としている「個人」を理解する基礎的な力を身に付けている。			
C 論理的思考力			人間の行動や心理について科学的、客観的に思考する基礎的な力を身に付けている。			
成績評価の基準と方法： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： %		レポート： 50 %		発表： %		実技試験： %
その他： 50 %						
特記事項： 自発的な授業時間外学習および積極的授業参加に基づいて成績評価を行う。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期： 初回時に授業の進め方および評価方法を説明します。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック： 主体的に学習できるように、学習到達度について毎回フィードバックします。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①心の理解と福祉的支援				心理学の学問領域		
②動機づけと適応				クエス1: 動機づけ		
③感情・情緒				クエス2: 感情		
④感覚・知覚・認知				クエス3: 感覚・知覚・認知		
⑤学習				クエス4: 学習・記憶		
⑥記憶と知能				クエス5: 知能		
⑦性格				クエス6: 性格		
⑧他者と集団: 社会心理				クエス7: 社会心理学		
⑨発達				クエス8: 発達		
⑩高齢期の心理				クエス9: 高齢期		
⑪精神障害・知的障害・発達障害				クエス10: 精神科領域の障害		
⑫発達障害・認知症・ストレス				クエス11: ストレス		
⑬心理学的アセスメント				クエス12: アセスメント		
⑭カウンセリングと心理療法				クエス13: 心理療法		
⑮福祉における心理的支援				ポスレベル・クエス		
使用テキスト： 指定テキストはありません。必要な参考資料は、図書館等で自ら収集してください。				その他参考文献など：心理学事典[平凡社];心理学辞典[有斐閣];心理学辞典[丸善];アイゼンク教授の心理学ハンドブック[ナカニシヤ出版]		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： クエス型授業によるアクティブ・ラーニングで学びます。履修学生同士が協働しながら、心理学の概要を楽しく学びます。学ぶことに喜びを感じるようになることが、この授業の第一の目標です。参加しないと損しますよ。						

社会福祉学科

社会福祉 専攻

1 年

科目名：社会福祉援助技術論 I				担当教員 氏名： 中村 尚紀		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	1年次	前期	専門必修科目	講義	必修	社会福祉士基礎受験資格
授業科目の学習教育目標の概要：						キーワード
ソーシャルワーカー(社会福祉士など)が現場で実践を展開するために必要な援助技術について学ぶ。事例を検討しながら相談援助の実践技術を習得していく。						ソーシャルワークの価値と倫理、相談援助の理念、専門職倫理とジレンマ
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 6. 7. 8. 9. 10	
A 知識・理解力			総合的かつ包括的な相談援助の理論と知識を理解することができる。			
B 専門的技術			実践現場で展開する援助技術が活用できる。			
C 論理的思考力			ソーシャルワーカーが直面する問題や課題について、複眼的論理的に分析できる。			
D 問題解決力			ソーシャルワークの価値と倫理を元にして、当事者を支援することができる。			
G 倫理観			ソーシャルワークの倫理綱領を理解し、援助実践に反映できる。			
成績評価の方法： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする。						
テスト： 40 %		レポート： 60 %		発表： %	実技試験： %	その他： 0 %
特記事項：						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：予習レポート、講義の中間・後半にまとめと振り返りを予定している。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：レポートはABCD評価、試験は点数を付けて返却する。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①社会福祉士の役割と意義				【事後】レポート		
②相談援助の概念と範囲 ソーシャルワークの形成過程				【事前・事後】レポート		
③相談援助に係る専門職の概念と範囲Ⅰ 児童福祉司				【事前・事後】レポート		
④相談援助に係る専門職の概念と範囲Ⅱ 社会福祉主事				【事前・事後】レポート		
⑤相談援助に係る専門職の概念と範囲Ⅲ 福祉事務所の現業員				【事前・事後】レポート		
⑥相談援助に係る専門職の概念と範囲Ⅳ 身体障害者福祉司				【事前・事後】レポート		
⑦相談援助の理念Ⅰ 人権尊重				【事前・事後】レポート		
⑧相談援助の理念Ⅱ 権利擁護				【事前・事後】レポート		
⑨相談援助の理念Ⅲ 尊厳の保持				【事前・事後】レポート		
⑩相談援助の理念Ⅳ 利用者本位				【事前・事後】レポート		
⑪相談援助の理念Ⅴ 自立支援				【事前・事後】レポート		
⑫相談援助の理念Ⅵ ノーマライゼーション				【事前・事後】レポート		
⑬相談援助の理念Ⅶ 社会的包摂・社会正義				【事前・事後】レポート		
⑭専門職倫理と倫理的ジレンマ				【事前・事後】レポート		
⑮ソーシャルワークに係る各種の国際定義				【事前・事後】レポート		
使用テキスト：「新社会福祉士養成講座 相談援助の基盤と専門職 第3版(中央法規)」				その他参考文献など：		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)：疑問点や分からないこと等はいつでも講師に相談してください。						

社会福祉学科			社会福祉 専攻		1 年
科目名: 社会福祉援助技術論Ⅱ				担当教員 氏名: 清水 剛志	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	1年次 前期	専門必修科目	講義	必修	社会福祉士基礎受験資格
授業科目の学習教育目標の概要:				キーワード	
相談援助についてよって立つ基盤と専門性について考える。ソーシャルワークの固有性、有用性について考える。対象者を取り巻く環境に着目した支援の在り方を考える。				エンパワメント ストレングス エコロジカル	
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福祉マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 6. 9	
A 知識・理解力	相談援助の基礎的な知識を習得する。				
B 専門的技術	相談援助の基礎的な技術を習得する。				
D 問題解決力	対象者の課題に対して自らの価値観との相違について考えることができる。				
G 倫理観	相談援助の概念を学び、人権尊重に基づいた倫理観を身につける。				
H コミュニケーション力	対象者、協働者との間に円滑な関係が構築できる。				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト: %	レポート: 50 %	発表: %	実技試験: %	その他: 50 %	
特記事項: 7回目の授業までの授業態度にて中間評価。最終のレポートを含めて総合評価する。					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 最後の講義時にレポート提出。授業態度にて評価する。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 評価をつけて返却します。					
授 業 計 画			事前・事後の学習課題		
①社会福祉士の役割と意義 社会福祉士の専門性			【事前】テキスト(社会福祉士の専門性)を読む。 【事後】①の復習		
②精神保健福祉士の役割と意義 精神保健福祉士の専門性			【事前】テキスト(精神保健福祉士の専門性)を読む。 【事後】②の復習		
③相談援助の理念 人権尊重			【事前】テキスト(相談援助の理念 人権尊重)を読む。 【事後】③の復習		
④相談援助の理念 社会正義			【事前】テキスト(相談援助の理念 社会正義)を読む。 【事後】④の復習		
⑤相談援助の理念 利用者本位			【事前】テキスト(相談援助の理念 利用者本位)を読む。 【事後】⑤の復習		
⑥相談援助の理念 尊厳の保持			【事前】テキスト(相談援助の理念 尊厳の保持)を読む。 【事後】⑥の復習		
⑦相談援助の理念 権利擁護			【事前】テキスト(相談援助の理念 権利擁護)を読む。 【事後】⑦の復習		
⑧相談援助の理念 自立支援			【事前】テキスト(相談援助の理念 自立支援)を読む。 【事後】⑧の復習		
⑨相談援助の理念 社会的包摂			【事前】テキスト(相談援助の理念 社会的包摂)を読む。 【事後】⑨の復習		
⑩相談援助の理念 ノーマライゼーション			【事前】テキスト(相談援助の理念 ノーマライゼーション)を読む。 【事後】⑩の復習		
⑪相談援助における権利擁護の意義			【事前】テキスト(相談援助における権利擁護の意義)を読む。 【事後】⑪の復習		
⑫相談援助にかかわる専門職の概念と範囲 福祉行政における専門職			【事前】テキスト(相談援助にかかわる専門職の概念と範囲)を読む。 【事後】⑫の復習		
⑬相談援助にかかわる専門職の概念と範囲 民間の施設・組織における専門職			【事前】テキスト(相談援助にかかわる専門職の概念と範囲)を読む。 【事後】⑬の復習		
⑭総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容			【事前】テキスト(総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容)を読む。 【事後】⑭の復習		
⑮総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容			【事前】テキスト(総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容)を読む。		
使用テキスト: 新・社会福祉士養成講座 6 相談援助の基盤と専門職(中央法規)				その他参考文献など:	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):					

社会福祉学科

社会福祉 専攻

1 年

科目名：社会福祉援助技術論Ⅲ				担当教員氏名：鷹西 恒		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	1年次	後期	専門選択科目	講義	選択	社会福祉士基礎受験資格
授業科目の学習教育目標の概要：						キーワード
人権尊重、権利擁護、当事者主体、ノーマライゼーション理念、自立生活、地域生活といった基本理念を踏まえつつ、ソーシャルワークの実践技法について考察する。また、ソーシャルワーク理論の理解や、様々な実践モデルの意義について学ぶことを目標とする。						ソーシャルワーク 利用者主体 権利擁護
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 6. 8. 9	
A 知識・理解力			障害者支援のための理論と知識を総合的に理解することができる			
B 専門的技術			利用者をアセスメントしたり支援計画作成の技術等を身につけることができる			
C 論理的思考力			疾病、障害から生活レベルを想定することで支援の論理性を培うことができる			
D 問題解決力			理論や実践を理解することで問題を解決する力を身につけることができる			
F チームワーク・リーダーシップ			グループで問題解決を行う力を身につける			
成績評価の基準と方法：以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： 50 %		レポート： 40 %		発表： %	実技試験： %	その他： 10 %
特記事項：その他とは、授業へのとり組み状況、態度のことである。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：講義の中間・後半にまとめと振り返りを予定している。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：レポート返却時のコメント等によってアドバイスを行う						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①現代社会とソーシャルワーク実践				・ソーシャルワークの体系を知る ・技法の説明ができるようになる ・ケアマネジメントの説明ができる ・隣接領域との関連性を調べる ・文献資料等から事例を調べる ・研究者の著書を読み理解を深める		
②ソーシャルワーク技術の活用と意義						
③ソーシャルワークの構造と機能						
④援助関係と援助						
⑤援助関係の質と自己覚知						
⑥ソーシャルワーク事例検討① ケース発見						
⑦ソーシャルワーク事例検討② アセスメント						
⑧ソーシャルワーク事例検討③ 目標設定・支援計画の作成と実施						
⑨ソーシャルワーク事例検討④ モニタリング～再アセスメント～終結						
⑩ネットワークの活用 他職種との連携 ケア会議の方法等をグループで学ぶ						
⑪記録の技法						
⑫集団を活用した援助 グループワークなど						
⑬スーパービジョン						
⑭個人情報保護、ITを活用した援助						
⑮まとめ						
使用テキスト：新・社会福祉士養成講座 7 「相談援助の理論と方法I」 社会福祉士養成講座編集委員会＝ 編集 中央法規出版				その他参考文献など：ソーシャルワーク論 空閑浩人 ミネルヴァ書房		

社会福祉学科

社会福祉 専攻

1 年

科目名：社会福祉援助技術論Ⅳ				担当教員 氏名：中村 尚紀		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	1年次	後期	専門選択科目	講義	選択	社会福祉士基礎受験資格
授業科目の学習教育目標の概要：						キーワード
人権尊重、権利擁護、当事者主体、ノーマライゼーション理念、自立生活、地域生活といった基本理念を踏まえつつ、ソーシャルワークの実践技法について考察する。また、ソーシャルワーク理論の理解や、様々な実践モデルの意義について学ぶことを目標とする。						利用者主体 ソーシャルワーク理論
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 6. 8	
A 知識・理解力			障害者支援のための理論と知識を総合的に理解することができる			
B 専門的技術			利用者をアセスメントしたり支援計画作成の技術等を身につけることができる			
C 論理的思考力			疾病、障害から生活レベルを想定することで支援の論理性を培うことができる			
D 問題解決力			理論や実践を理解することで問題を解決する力を身につけることができる			
G 倫理観			ソーシャルワーク理論の根底に倫理観があることを理解している			
成績評価の基準と方法：以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： 40 %		レポート： 60 %		発表： 0 %		実技試験： 0 %
その他： 0 %						
特記事項：						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：予習レポート、講義の中間・後半にまとめと振り返りを予定している。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：レポートはABCD評価、試験は点数を付けて返却する。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①ソーシャルワークとは何か ～人と環境の相互作用～				【事後】レポート		
②相談援助の対象と範囲～医学モデルと生活モデル～				【事前・事後】レポート		
③心理社会的アプローチ、機能派アプローチ				【事前・事後】レポート		
④問題解決アプローチ				【事前・事後】レポート		
⑤家族療法アプローチ、行動変容アプローチ				【事前・事後】レポート		
⑥課題中心アプローチ				【事前・事後】レポート		
⑦エコロジカルアプローチ、ジェネラリストアプローチ				【事前・事後】レポート		
⑧エンパワメントアプローチとナラティブアプローチ				【事前・事後】レポート		
⑨ソーシャルサポートネットワーク				【事前・事後】レポート		
⑩障害者ソーシャルワークにおける社会資源利用				【事前・事後】レポート		
⑪ケアマネジメント概論その1				【事前・事後】レポート		
⑫ケアマネジメント概論その2				【事前・事後】レポート		
⑬臨床における面接技術とは				【事前・事後】レポート		
⑭スーパーヴィジョン				【事前・事後】レポート		
⑮まとめと振り返り						
使用テキスト：新・社会福祉士養成講座 8 「相談援助の理論と方法Ⅱ第3版」社会福祉士養成講座編集委員会＝編集 中央法規出版				その他参考文献など：		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)：疑問点や分からないこと等はいつでも講師に相談してください。						

社会福祉学科

社会福祉 専攻

1 年

科目名： 高齢者に対する支援と介護保険制度 I				担当教員 氏名： 松尾祐子、上山勝史、小西英輔		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	1年次	前期	専門必修科目	講義	必修	社会福祉士基礎受験資格
授業科目の学習教育目標の概要：						キーワード
高齢者福祉の過去から現在までの展開を踏まえ、高齢者支援にかかわる様々な側面や角度から現状を学ぶ。						少子高齢社会、特性、老人福祉法、介護保険制度、介護サービス、自立、介護予防
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 6. 9. 10	
A 知識・理解力			高齢化の現状、高齢者の特性、介護保険制度のサービスを理解する。			
B 専門的技術			現在利用できる社会資源について理解し、支援に活かせるようになる。			
C 論理的思考力			高齢者保健福祉の歴史を理解し、現行の制度の課題を考えることができる。			
A 知識・理解力			高齢者のニーズを捉え、その援助(介護)方法について理解する。			
G 倫理観			高齢者の相談や介護場面に必要な倫理を理解する。			
成績評価の基準と方法： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： 70 %		レポート： 25 %		発表： %	実技試験： %	その他： 5 %
特記事項：その他として、授業に対する参加度や態度を含む。 また、レポートには毎回の感想(出席カード)を含む。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：小テストを行う。(レポートの場合あり) 毎回授業の感想、新聞を読んだのレポート(要約と感想)随時						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：レポートはコメントと評価をつけて返却する。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
【松尾】①オリエンテーション、少子高齢化社会の現状と課題				4月5日	序章を読む	
【松尾】②高齢者の心身の特性と支援				4月12日	1章を読む	
【松尾】③老年期について				4月19日	高齢期の心身の特徴について調べる	
【松尾】④戦前の高齢福祉制度				4月26日	2章を読む	
【松尾】⑤戦後の高齢者福祉制度				5月10日	歴史をまとめる	
【松尾】⑥高齢者保健福祉政策の概要				5月17日	4章を読む	
【松尾】⑦老人福祉法				5月24日	老人福祉法についてまとめる	
【松尾】⑧介護保険制度の仕組み				5月31日	5章を読む	
【松尾】⑨介護保険サービス(居宅・地域密着型サービス)				6月7日	6章を読む	
【松尾】⑩介護保険サービス(施設サービス、予防給付)				6月14日	介護サービスについてまとめる	
【小西】⑪高齢者の生活とニーズ				6月21日	3章を読む	
【小西】⑫介護の概念、理念と倫理				6月28日	9章を読む	
【上山】⑬介護の技法				7月5日	介護の技法をまとめる	
【上山】⑭介護予防について				7月12日	介護予防についてまとめる	
【上山】⑮振り返り				7月19日	テキストの見直しをする	
使用テキスト：よくわかる介護保険(社会保険出版社) 新・社会福祉士養成課程対応 『高齢者に対する支援と介護保険制度』(みらい)				その他参考文献など： 『高齢社会白書』内閣府		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： 配布するプリントは整理しておいてください。						

社会福祉学科

社会福祉 専攻

1 年

科目名： 高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ				担当教員 氏名： 松尾祐子、串田美代志		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	1年次	後期	専門必修科目	講義	必修	社会福祉士基礎受験資格
授業科目の学習教育目標の概要：						キーワード
高齢者福祉の過去から現在までの展開を踏まえ、高齢者支援にかかわる様々な側面や角度から現状を学ぶ。						認知症、終末期、専門職、虐待、地域ケア、多職種、ケアマネジメント
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 6. 9. 10	
A 知識・理解力			高齢者を支援する組織とその役割を理解する。			
B 専門的技術			介護をめぐる連携の現状を理解し、支援に活かせるようになる。			
C 論理的思考力			高齢者の支援を複眼的・論理的に分析し理解する。			
D 問題解決力			認知症などの高齢者のニーズを捉え、援助方法について理解する。			
G 倫理観			高齢者の相談や介護の場面に必要な倫理を理解する。			
成績評価の基準と方法： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： 70 %		レポート： 25 %		発表： %	実技試験： %	その他： 5 %
特記事項：その他として、授業に対する参加度や態度を含む。 また、レポートには毎回の感想(出席カード)を含む。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：小テストを行う。(レポートの場合あり) 毎回授業の感想、新聞を読んだのレポート(要約と感想)随時						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：レポートはコメントと評価をつけて返却する。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
【串田】①認知症ケア				10章を読む		
【串田】②認知症ケア：事例				認知症についてまとめる		
【串田】③エンドオブライフケア				11章を読む		
【串田】④高齢者を支援する専門職の役割				8章を読む		
【串田】⑤専門職の連携(ケアマネジメント)				専門職の役割をまとめる		
【串田】⑥振り返り				ケアマネジメントについてまとめる		
【松尾】⑦国・都道府県・市町村の役割				7章を読む		
【松尾】⑧指定サービス事業者や介護保険施設の役割				介護サービスの役割をまとめる		
【松尾】⑨高齢者虐待防止法成立の背景と概要				12章を読む		
【松尾】⑩虐待防止の現状と取り組み				虐待防止についてまとめる		
【松尾】⑪地域支援サポートネットワーク				終章を読む		
【松尾】⑫在宅ケア推進と課題				在宅ケアについてまとめる		
【松尾】⑬保健・医療・福祉の連携に関する課題				連携についてまとめる		
【松尾】⑭福祉・介護の専門性と雇用環境				福祉・介護の専門性をまとめる		
【松尾】⑮振り返り				介護保険制度についてまとめる		
使用テキスト：よくわかる介護保険(社会保険出版社) 新・社会福祉士養成課程対応 『高齢者に対する支援と介護保険制度』(みらい)				その他参考文献など： 『高齢社会白書』内閣府		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： 配布するプリントは整理しておいてください。						

科目名: 障害者福祉論			担当教員 氏名: 鷹西 恒		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	1年次 前期	専門必修科目	講義	必修	社会福祉士基礎受験資格
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード
<ul style="list-style-type: none"> ・障害をもつことへの共感的理解に必要な態度を自覚すること。 ・empowermentなど将来社会福祉士となった際に必要な技術を理解すること。 ・障害者自立支援システムについて理解すること。 					自立生活 empowerment 自立支援制度
授業科目の到達目標					
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 6. 9. 10	
A 知識・理解力	障害者支援のための理論と知識を総合的に理解することができる。				
B 専門的技術	利用者をアセスメントする視点等を身につけることができる				
C 論理的思考力	疾病、障害から生活レベルを想定することで支援の論理性を培うことができる				
D 問題解決力	新しい理念などを知識として活用し、問題解決に至る力を身につけることができる				
G 倫理観	差別や偏見について考えることで自己の人格的成長を図ることができる				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト: 50 %	レポート: 40 %	発表: %	実技試験: %	その他: 10 %	
特記事項: その他とは、授業出席、態度のことである。					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 講義の中間・後半にまとめと振り返りを予定している。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: レポート返却時のコメント等によってアドバイスを行う					
授 業 計 画			事前・事後の学習課題		
①障害の概念と障害者の実態			-----		
②障害の概念と障害者の実態 ICIDHとICF			・ICFについて調べる		
③障害者福祉の基本理念① ノーマライゼーション、リハビリテーション			・理念形成の経緯を調べる		
④障害者福祉の基本理念② エンパワメント			・法制度の体系から障害者の定義		
⑤障害者の法制度 身体、知的、精神、発達障害等の各法			を把握すること		
⑥障害者施策の発展			・官庁等のHPで制度等を調べる		
⑦障害者福祉のサービス体系 障害者総合支援法 概説、			・ボラ活動等で知識を活かす		
⑧障害者福祉のサービス体系 障害者総合支援法 実践、運用			・総合支援法の概要を知る		
⑨ユニバーサルデザインとバリアフリー(1) ハード、ソフトの面から考える			-----		
⑩ユニバーサルデザインとバリアフリー(2) 新バリアフリー法から考える			-----		
⑪自立生活と生活ニーズ			-----		
⑫障害者の社会参加～障がい者スポーツの世界～			-----		
⑬ケーススタディ			-----		
⑭国際理解、他職種との連携、関連サービスの理解			-----		
⑮まとめ			-----		
使用テキスト: 障害者福祉の世界 第5版 佐藤 久夫(日本社会事業大学教授), 小澤 温(東洋大学教授) /著 有斐閣アルマ			その他参考文献など: 「国民の福祉と介護の動向」厚生労働省		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):					
<ul style="list-style-type: none"> ・配布する資料等を紛失しないよう注意してください。 ・レポート等の提出は原則としてmail(PC、携帯等)を使用する。 					

社会福祉学科

社会福祉 専攻

1 年

科目名： 児童・家庭福祉論				担当教員 氏名： 竹島 弘子、長岡 吉弘		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
2	1年次 前期	専門必修科目	講義	必修	社会福祉士基礎受験資格	
授業科目の学習教育目標の概要：				キーワード		
<ul style="list-style-type: none"> 児童・家庭福祉制度の発展過程について理解する。 児童の権利について理解する。 相談援助活動において必要となる法制度等について理解する。 				児童福祉 権利 相談		
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 6. 7. 8		
A 知識・理解力	児童福祉分野における総合的な知識力を高めることができる					
B 専門的技術	相談援助に必要な情報や技術を身につけることができる					
C 論理的思考力	児童相談援助のプロセスを理解することで思考力を身につけることができる					
D 問題解決力	事例を検討することで問題解決能力を高めることができる					
G 倫理観	児童の権利擁護について考えることで自己の人格的成長を図ることができる					
成績評価の基準と方法： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
試験： 50 %	レポート： 40 %	発表： %	実技試験： %	その他： 10 %		
特記事項：その他とは、授業態度のことである。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：中間およびまとめで行う(⑧、⑮で実施)						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：答案やレポートには、評価してコメントをつけて学生にフィードバックしています。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①【長岡】オリエンテーション						
②【竹島】子ども家庭福祉とは何か		子ども家庭福祉の理念		【事前】教科書の予習 【事後】講義内容の復習		
③【竹島】子ども家庭福祉とは何か		子ども家庭福祉の原理		【事前】教科書の予習 【事後】講義内容の復習		
④【竹島】子ども家庭福祉とは何か		子どもと家庭の権利保障		【事前】教科書の予習 【事後】講義内容の復習		
⑤【竹島】現代社会と子ども家庭				【事前】教科書の予習 【事後】講義内容の復習		
⑥【竹島】現代社会と子ども家庭		現代社会と子ども家庭の問題		【事前】教科書の予習 【事後】講義内容の復習		
⑦【竹島】現代社会と子ども家庭		子どもの育ち、子育てのニーズ		【事前】教科書の予習 【事後】講義内容の復習		
⑧【竹島】子ども家庭福祉にかかわる法制度、中間まとめ(レポート)				【事前】教科書の予習、①～⑦の復習 【事後】講義内容の復習		
⑨【竹島】子ども家庭福祉にかかわる法制度		子ども家庭福祉の法体系と財政および実施体制		【事前】教科書の予習 【事後】講義内容の復習		
⑩【竹島】子ども家庭福祉にかかわる法制度		子ども家庭福祉の専門職、権利擁護		【事前】教科書の予習 【事後】講義内容の復習		
⑪【竹島】子ども家庭にかかわる福祉・保健				【事前】教科書の予習 【事後】講義内容の復習		
⑫【竹島】子ども家庭にかかわる福祉・保健		母子保健、健全育成、児童虐待対策		【事前】教科書の予習 【事後】講義内容の復習		
⑬【長岡】子ども家庭への援助活動				【事前】教科書の予習 【事後】講義内容の復習		
⑭【長岡】子ども家庭への援助活動				【事前】教科書の予習 【事後】講義内容の復習		
⑮【竹島】振り返りとまとめ				⑧～⑭を中心に全体の復習		
使用テキスト：新・社会福祉士養成講座 15 「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」				その他参考文献など：「子ども家庭福祉論」山縣文治著(ミネルヴァ書房)、「子どもへのまなざし」(全3巻)佐々木正美(福音館書店)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)：						

社会福祉学科

社会福祉 専攻

1 年

科目名： 公的扶助論				担当教員 氏名： 南 義昭		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
2	1年次 後期	専門選択科目	講義	選択	社会福祉士基礎受験資格	
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
<ul style="list-style-type: none"> 生活保護制度の概念と意義を理解する。 生活保護の歴史、構造、実施機関を理解する。 最近の動向を理解する。 					貧困・低所得者、 住居並びに生活不安定者、 最低限度の生活	
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 3. 6. 9. 10		
A 知識・理解力		生活保護制度の構造を理解することができる。				
C 論理的思考力		生活保護制度の流れを比較しながら理解することができる。				
D 問題解決力		最近の動向を理解し、課題と解決について考えることができる。				
成績評価の基準と方法： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： 40 %	レポート： 40 %	発表： %	実技試験： %	その他： 20 %		
特記事項： レポートは最近の新しい取り組みについてのものを評価する。その他は出席態度を評価する。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：レポートは8回目、テストは15回目に実施する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：授業の中でレポート、テストの論点を確認する。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①公的扶助の概念、意義と役割				【事前学習】教科書第1章を読む 【事後学習】①の復習		
②貧困・低所得者問題				【事前学習】教科書第2章を読む 【事後学習】②の復習		
③公的扶助制度歴史 海外				【事前学習】教科書第3章第1節を読む 【事後学習】③の復習		
④公的扶助制度の歴史 日本				【事前学習】教科書第3章第2節を読む 【事後学習】④の復習		
⑤生活保護制度の仕組み、原理、原則				【事前学習】教科書第4章第1節、第2節を読む 【事後学習】⑤の復習		
⑥保護の種類と内容、保護施設				【事前学習】教科書第4章第3節、第4節を読む 【事後学習】⑥の復習		
⑦被保護者の権利と義務、不服申し立てと訴訟				【事前学習】教科書第4章第5節、第6節を読む 【事後学習】⑦の復習		
⑧生活保護の財源・予算 最近の現状に関するレポート課題				【事前学習】教科書第4章第7節、第8節を読む 【事後学習】⑧の復習		
⑨生活保護の水準				【事前学習】教科書第5章を読む 【事後学習】⑨の復習		
⑩生活保護の動向				【事前学習】教科書第6章を読む 【事後学習】⑩の復習		
⑪低所得者対策の概要				【事前学習】教科書第7章を読む 【事後学習】⑪の復習		
⑫生活保護の運営実施体制と関係機関・団体				【事前学習】教科書第8章を読む 【事後学習】⑫の復習		
⑬貧困・低所得者に対する相談援助活動				【事前学習】教科書第9章を読む 【事後学習】⑬の復習		
⑭生活保護における自立支援				【事前学習】教科書第10章を読む 【事後学習】⑭の復習		
⑮まとめ 歴史、仕組み、権利、動向、支援など						
使用テキスト： 新・社会福祉士養成講座 16 「低所得者に対する支援と生活保護制度」 第3版 中央法規出版				その他参考文献など：		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)：近年低所得者支援は、著しく変化しています。新聞、テレビ等のニュースからテキストには記載されていない新たな取り組みをも理解していく必要があります。						

社会福祉学科

社会福祉 専攻

1 年

科目名： 相談援助演習 I				担当教員 氏名： 鷹西 恒、松尾 祐子					
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
1	1年次	前期	専門必修科目	演習	必修	社会福祉士基礎受験資格			
授業科目の学習教育目標の概要： 本授業は、相談援助にかかわる他の科目と関連性を視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助にかかわる知識と技術について実践的に習得すること、具体的な援助場面を想定した実技指導を通して、総合的かつ包括的な援助技術および地域福祉の基盤整備と開発にかかる具体的な相談援助事例を体系的に学び、専門的援助として概念化し体系立てていくことができる能力の涵養を目標としています。						キーワード 社会福祉専門職としての価値・倫理、コミュニケーション技法、自己覚知、面接技法、記録技法、情報整理技法			
授業科目の到達目標									
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 6. 7				
A	知識・理解力		社会福祉の基本的知識とコミュニケーション技法を理解することができる。						
C	論理的思考力		当事者が直面する問題を複眼的論理的に分析し、支援に活かせる。						
E	自己管理能力		常に自らを律して、他者とコミュニケーションができる。						
G	倫理観		ソーシャルワークの価値と倫理に従って援助活動ができる。						
H	コミュニケーション力		当事者やその家族とのコミュニケーション技法を具体的に駆使することができる。						
成績評価の基準と方法： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト：	%	レポート：	40 %	発表：	40 %	実技試験：	%	その他：	20 %
特記事項：演習への参加姿勢(ロールプレイを含む)、レポートなどで総合的に評価する。原則的に100%の出席を求める。その他とは授業態度・姿勢のことである。アクティブ・ラーニングの一環として、グループディスカッション・ディベートを行う。									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：授業の中で適時案内する。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：レポートは評価やコメントを付けて返却する。									
授 業 計 画						事前・事後の学習課題			
①オリエンテーション						各テーマに応じて適宜連絡する。			
②ソーシャルワーク実践：ソーシャルワーカーの使命と役割を理解する									
③専門職としての価値・倫理と自己覚知									
④自分の生活史を作成し生活史把握の意義について学ぶ									
⑤自己理解、自己覚知について体験的に学ぶ									
⑥他者を理解すること									
⑦コミュニケーションについて学ぶ(1)									
⑧コミュニケーションについて学ぶ(2)									
⑨これまでのまとめとこれからの演習の進め方について									
⑩基礎的技能：面接技法についての理解を深める(1)									
⑪基礎的技能：面接技法についての理解を深める(2)									
⑫基礎的技能：面接技法についての理解を深める(3)									
⑬基礎的技能：記録技法と情報整理技法についての理解を深める(1)									
⑭基礎的技能：記録技法と情報整理技法についての理解を深める(2)									
⑮授業のまとめと振り返り									
使用テキスト： 福祉小六法 現代社会福祉用語の基礎知識				その他参考文献など：川村隆彦著「価値と倫理を根底に置いたソーシャルワーク」中央法規					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： 演習なので、受講生は主体的、積極的に取り組むこと。									

社会福祉学科

社会福祉 専攻

1 年

科目名: 相談援助演習Ⅱ				担当教員 氏名: 鷹西 恒、松尾 祐子		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	1年次	後期	専門必修科目	演習	必修	社会福祉士基礎受験資格
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
本授業は、相談援助にかかわる他の科目と関連性を視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助にかかわる知識と技術について実践的に習得すること、具体的な援助場面を想定した実技指導を通して、総合的かつ包括的な援助技術および地域福祉の基盤整備と開発にかかる具体的な相談援助事例を体系的に学び、専門的援助として概念化し体系立てていくことができる能力の涵養を目標としています。						インテーク、アセスメント、プランニング、介入、モニタリング・サービス評価
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福祉マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 6. 7	
A 知識・理解力			社会福祉の基本的知識とコミュニケーション技法を理解することができる。			
C 論理的思考力			当事者が直面する問題を複眼的論理的に分析し、支援に活かせる。			
E 自己管理能力			常に自らを律して、他者とコミュニケーションができる。			
G 倫理観			ソーシャルワークの価値と倫理に従って援助活動ができる。			
H コミュニケーション力			当事者やその家族とのコミュニケーション技法を具体的に駆使することができる。			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: %		レポート: 40 %		発表: 40 %		実技試験: %
その他: 20 %						
特記事項: 演習への参加姿勢(ロールプレイを含む)、レポートなどで総合的に評価する。原則的に100%の出席を求める。その他とは授業態度・姿勢のことである。アクティブ・ラーニングの一環として、グループディスカッション・ディベートを行う。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 授業の中で適時案内する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: レポートは評価やコメントを付けて返却する。						
使用テキスト: 福祉小六法 2017 現代社会福祉用語の基礎知識				その他参考文献など: 田中英樹・中野伸彦「ソーシャルワーク演習のための88事例」中央法規		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 演習なので、受講生は主体的、積極的に取り組むこと。						
授 業 計 画						事前・事後の学習課題
回数						
1	相談援助の実際と援助技術についてを事例を活用して学ぶ					各テーマに応じて適宜連絡する。
2	ソーシャルワーク実践の展開					
3	事例検討の目的・方法					
4	事例学習①					
5	事例学習②					
6	事例学習③					
7	事例学習④					

※前ページよりつづき

社会福祉学科

社会福祉 専攻

1年

科目名: 相談援助演習Ⅱ

担当教員 氏名: 鷹西 恒、松尾 祐子

回数	授 業 計 画	事前・事後の学習課題
8	事例学習⑤	各テーマに応じて適宜連絡する。
9	事例学習⑥	
10	事例学習⑦	
11	事例学習⑧	
12	事例学習⑨	
13	事例学習⑩	
14	事例学習⑪	
15	これまでのまとめとこれからの演習の進め方について	
16	相談援助の展開について学ぶ	
17	ソーシャルワーク方法論と援助の展開について①	
18	ソーシャルワーク方法論と援助の展開について②	
19	インテーク演習	
20	アセスメント演習①	
21	アセスメント演習②	
22	プランニング演習①	
23	プランニング演習②	
24	支援の実施(介入)演習①	
25	支援の実施(介入)演習②	
26	モニタリング(再アセスメント含む)・サービス評価	
27	効果測定	
28	終結	
29	アフターケア	
30	授業のまとめと振り返り	

社会福祉学科			社会福祉 専攻		1 年
科目名: 相談援助実習指導 I				担当教員 氏名: 鷹西 恒、松尾 祐子	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	1年次 前期	専門選択科目	講義	選択	社会福祉士基礎受験資格
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード
実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について体得し、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握など、総合的に対応できる能力を習得する。相談援助実習は180時間以上、25日間の実習時間とし、2年次の7月上旬頃から行うこととしている。					相談援助知識と技術、実習へ向けての心構え
授業科目の到達目標					
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 6. 7. 8. 9. 10	
A 知識・理解力		実習する分野についての知識と実習施設についての理解をすることができる。			
B 専門的技術		実習する分野における当事者理解や援助技術を進めることができる。			
E 自己管理能力		実習に関する提出物や施設への調整連絡などの実習業務管理ができる。			
G 倫理観		実習現場に置いてソーシャルワークの価値と倫理に従って行動できる。			
H コミュニケーション力		実習における利用者や施設職員や実習指導者と適切なコミュニケーションを実践できる。			
成績評価の方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする。					
テスト: %	レポート: 40 %	発表: 40 %	実技試験: %	その他: 20 %	
特記事項: その他とは、授業態度のことである。なお、アクティブラーニングとしてグループ学習、発表等があります。					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 講義の中間・後半にまとめと振り返りを予定している。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 評価を付けてレポートを返却する。					
授 業 計 画			事前・事後の学習課題		
①オリエンテーション(現場実習・実習指導の意義と位置づけ)			【事後】レポート		
②相談援助実習と相談援助実習指導における個別指導及び集団指導の意義(講義や演習との関係)			【事前・事後】レポート		
③相談援助実習の目的と概要			【事前・事後】レポート		
④実習施設・機関の例・概要Ⅰ(高齢者施設)			【事前・事後】レポート		
⑤実習施設・機関の例・概要Ⅱ(障害者施設、児童福祉施設)			【事前・事後】レポート		
⑥実習施設・機関の例・概要Ⅲ(社会福祉協議会、福祉事務所)			【事前・事後】レポート		
⑦実習施設・機関の例・概要Ⅳ(病院、地域包括支援センター等)			【事前・事後】レポート		
⑧社会福祉施設見学(富山県内)			【事前・事後】レポート		
⑨招聘講師による高齢者福祉分野における現場実践についての講義(質疑応答を含む)Ⅰ			【事前・事後】レポート		
⑩招聘講師による障害者福祉分野における現場実践についての講義(質疑応答を含む)Ⅱ			【事前・事後】レポート		
⑪招聘講師による児童福祉分野における現場実践についての講義(質疑応答を含む)Ⅲ			【事前・事後】レポート		
⑫招聘講師による地域福祉分野における現場実践についての講義(質疑応答を含む)Ⅳ			【事前・事後】レポート		
⑬相談援助実習施設についてⅠ(グループ学習)			【事前・事後】レポート		
⑭相談援助実習施設についてⅡ(グループ発表)			【事前・事後】レポート		
⑮まとめ					
使用テキスト:「社会福祉士シリーズ22 相談援助実習・相談援助実習指導」弘文堂、福祉小六法、現代社会福祉用語の基礎知識学文社 その他適宜資料を配布する。				その他参考文献など:	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):原則として全授業に出席すること。レポートなどの締め切りを守って提出をしなければ、本単位は認定されないの、十分な覚悟の上履修してほしい。なお、2年次の実習については、授業への取り組みなどが一定以上の者に限って認めるものである。					

社会福祉学科

社会福祉 専攻

1 年

科目名: 相談援助実習指導Ⅱ					担当教員 氏名: 鷹西 恒、松尾 祐子	
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	1年次	後期	専門選択科目	講義	選択	社会福祉士基礎受験資格
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について体得し、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握など、総合的に対応できる能力を習得する。						相談援助知識と技術、実習へ向けての心構え
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 6. 7. 8. 9. 10	
A 知識・理解力			実習する分野についての知識と実習施設についての理解をすることができる。			
B 専門的技術			実習する分野における当事者理解や援助技術を進めることができる。			
E 自己管理能力			実習に関する提出物や施設への調整連絡などの実習業務管理ができる。			
G 倫理観			実習現場に置いてソーシャルワークの価値と倫理に従って行動できる。			
H コミュニケーション力			実習における利用者や施設職員や実習指導者と適切なコミュニケーションを実践できる。			
成績評価の方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする。						
テスト:	%	レポート:	40 %	発表:	40 %	実技試験: %
						その他: 20 %
特記事項: その他とは、授業出席、態度のことである。なお、アクティブラーニングとしてグループ学習、発表等があります。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 2年生の相談援助実習報告会終了後にレポートを課す。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 評価を付けてレポートを返却する。						
授 業 計 画					事前・事後の学習課題	
①オリエンテーション					【事後】レポート	
②実習分野(施設・事業者・機関・団体・地域社会等)に関する基本的な理解Ⅰ					【事前・事後】レポート	
③実習分野(施設・事業者・機関・団体・地域社会等)に関する基本的な理解Ⅱ					【事前・事後】レポート	
④実習分野(施設・事業者・機関・団体・地域社会等)に関する基本的な理解Ⅲ					【事前・事後】レポート	
⑤2年生相談援助実習報告会参加					【事前・事後】レポート	
⑥実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解Ⅰ					【事前・事後】レポート	
⑦実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解Ⅱ					【事前・事後】レポート	
⑧実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解Ⅲ					【事前・事後】レポート	
⑨ボランティア体験実習報告会					【事前・事後】レポート	
⑩実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解Ⅰ					【事前・事後】レポート	
⑪実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解Ⅱ					【事前・事後】レポート	
⑫実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解Ⅲ					【事前・事後】レポート	
⑬社会福祉士の倫理と倫理的ジレンマ、守秘義務と個人情報保護					【事前・事後】レポート	
⑭実習システムと実習生の責務、事前学習の目的と方法					【事前・事後】レポート	
⑮まとめ(実習先の選定)						
使用テキスト: 福祉小六法、現代社会福祉用語の基礎知識 学文社、実習実施要綱、「社会福祉士シリーズ22 相談援助実習・相談援助実習指導」弘文堂、その他適宜資料を配布する。					その他参考文献など:	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 原則として全授業に出席すること。2年次の実習については、1年次の授業への取り組みが一定以上の者に限って認めるものである。						

社会福祉学科

社会福祉 専攻

1 年

科目名：リハビリテーションと介護				担当教員：松原良子、鷹西恒、森美佐紀、松尾祐子、毛利亘、米田貢	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	1年次 前期	専門選択科目	講義	選択	
授業科目の学習教育目標の概要：					キーワード
高齢者及び障害者の疾病と障害と、リハビリテーションの基礎知識を学ぶ。地域での生活を支える技術や在宅サービスの役割を学び、具体的な支援方法を理解する。					リハビリテーション、行動、医療と福祉、在宅サービス、住環境、福祉用具
授業科目の到達目標					
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 4. 5. 6. 8. 9. 10	
A 知識・理解力		リハビリテーションと介護に必要な知識と技術を習得する。			
B 専門的技術		リハビリテーションと介護に必要な技術を理解する。			
C 論理的思考力		根拠に基づいたリハビリテーションや介護の方法を理解する。			
D 問題解決力		リハビリテーションや介護を行う方法を考えることで、問題解決技能を養う。			
成績評価の基準と方法：以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト：30%	レポート：50%	発表：10%	実技：10%	その他：%	
特記事項：					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：レポートはコメントと評価をつけて返却する。					
授 業 計 画			事前・事後の学習課題		
①【松原】在宅サービスの概要			4月6日	在宅サービスについてまとめる。	
②【松原】訪問介護について			4月13日	訪問介護についてまとめる。	
③【鷹西】住宅・福祉用具に関する知識			4月20日	住宅・福祉用具についてまとめる。	
④【森】福祉レクリエーション			4月27日	福祉レクリエーションについてまとめる。	
⑤【松尾】在宅サービスの基本的姿勢			5月11日	在宅サービスの基本姿勢についてまとめる。	
⑥【松尾】介護の記録・報告			5月18日	記録・報告の仕方についてまとめる。	
⑦【毛利】介護事例検討			5月25日	事例について復習する。	
⑧【毛利】介護事例検討			6月1日	事例について復習する。	
⑨【米田】リハビリテーションとは			集中講義	リハビリテーションについてまとめる。	
⑩【米田】障害の程度とその影響1				障害の程度とその影響についてまとめる。	
⑪【米田】障害の程度とその影響2				障害の程度とその影響についてまとめる。	
⑫【米田】リハビリテーションの視点からみた介護技術				介護技術についてまとめる。	
⑬【米田】リハビリテーションの展開				リハビリテーションの展開についてまとめる。	
⑭【米田】リハビリテーションと介護				リハビリテーションと介護についてまとめる。	
⑮【米田】まとめ				リハビリテーションと介護についてまとめる。	
使用テキスト：なし 適時プリントを配布します。			その他参考文献など： 『ケアの本質-いきることの意味』 ミルトン・メイヤロフ ゆるみ出版		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)：					

社会福祉学科

社会福祉 専攻

1 年

科目名: 介護技術					担当教員 氏名: 毛利 亘、小出えり子、 新任教員	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
1	1年次 前期	専門選択科目	演習	選択		
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
日常生活を営むことが困難な方に、生活を支える基本的な介護技術を習得する内容となっています。利用者の個別性を考えた援助ができるよう原理・原則を踏まえ、根拠にもとづく自立に向けた実践的な介護技術を学びます。					尊厳、アセスメント、 ボディメカニクス、安全安楽	
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリクスで示される番号)		2. 5. 6. 7.		
A 知識・理解力		生活援助の基本姿勢が理解できる。				
B 専門的技術		介護技術の基本が習得できる。				
C 論理的思考力		科学的な根拠にもとづいた安全・安楽な技術を思考できる。				
H コミュニケーション力		介護の場面における適切なコミュニケーション力を身につける。				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: %	レポート: 80 %	発表: %	実技試験: %	その他: 20 %		
特記事項: その他20パーセントとは演習への取り組みの姿勢をいいます。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 最終日にレポートの課題を提示します。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 評価のためのレポートにコメントし、個人にフィードバックします。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①【毛利】環境の整備				<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; text-align: center;"> 授業日程は集中講義 時間割を参照 </div>		
②【毛利】ベッドメイキング						
③【 】移動の介護(ベッド上での移動)						
④【 】移動の介護(座位から立位)						
⑤【毛利】移動の介護(杖歩行の介護)						
⑥【毛利】移動の介護(車イスの介護)						
⑦【 】衣類着脱の介護(座位姿勢での介護)						
⑧【 】衣類着脱の介護(臥床状態での介護)						
⑨【毛利】食事の介護(水分補給)						
⑩【毛利】食事の介護						
⑪【 】排泄の介護(簡易トイレでの介護)						
⑫【 】排泄の介護(臥床状態での介護)						
⑬【毛利・小出・ 】清潔の介護 手浴・足浴						
⑭【毛利・小出・ 】機械浴における介護						
⑮【毛利・小出・ 】清潔の介護 洗髪・清拭・まとめと評価課題説明						
使用テキスト:				その他参考文献など: 今日から実践!『“持ち上げない”移動・移乗技術』中央法規		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 随時資料を配布します。演習には積極的に臨んで下さい。						

社会福祉学科

社会福祉 専攻

1 年

科目名: ソーシャルワーク特講				担当教員 氏名: 鷹西恒、清水剛志、砂田大輔、岡本久子、大島淳一、清水利恵					
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
2	1年次	後期	専門選択科目	講義	選択				
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
ソーシャルワーク実践の中でとくに注目されている取り組みや関連技術にスポットを当て、実践者による講義を聴くことで学習理解を深める。					発達障害、情報支援技術、富山型、学校social work				
授業科目の到達目標									
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 6				
A 知識・理解力			新しい実践に触れることで総合的な知識力を高めることができる						
B 専門的技術			ソーシャルワークにおける視野、視界、視座の範囲を広げることができる						
C 論理的思考力			想起、研究、実践のプロセスを理解することで思考力を身につけることができる						
D 問題解決力			理論や技術を取り入れることで問題解決に至る力を身につけることができる						
G 倫理観			実践者の倫理観を考えることで自己の人格的成長を図ることができる						
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	90 %	発表:	%	実技試験:	%	その他:	10 %
特記事項: その他とは授業の取り組み状況や態度のことである また、講義に演習が含まれる									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 講師ごとにレポート課題等が課せられる。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: レポート返却時のコメント等によってアドバイスを行う									
授 業 計 画				事前・事後の学習課題					
①【鷹西】オリエンテーション				9月26日					
②【わいわいサポート 清水剛志】学校ソーシャルワーク概論(1)				10月3日					
③【わいわいサポート 清水剛志】学校ソーシャルワーク概論(2)				10月10日					
④【わいわいサポート 清水剛志】学校ソーシャルワーク概論※演習				10月17日					
⑤【特養ホーム清楽園 砂田大輔】福祉レクリエーション学				10月24日					
⑥【NPO法人くるみ 岡本】地域支援学概論				10月31日					
⑦【NPO法人くるみ 岡本】地域支援学概論 ※演習				11月7日					
⑧【県リハビリ病院 大島】アシスティブテクノロジー(情報支援技術)概論				11月14日					
⑨【県リハビリ病院 大島】アシスティブテクノロジー(情報支援技術)概論				11月28日					
⑩【県リハビリ病院 大島】アシスティブテクノロジー(情報支援技術)概論				12月5日					
⑪【県リハビリ病院 大島】アシスティブテクノロジー(情報支援技術)概論				12月12日					
⑫【県リハビリ病院 大島】アシスティブテクノロジー(情報支援技術)概論				12月19日					
⑬【立山WAIいいちゃ 清水利恵】富山型デイサービス概論				1月9日					
⑭【立山WAIいいちゃ 清水利恵】富山型デイサービス概論				1月16日					
⑮【鷹西】まとめと振り返り				1月23日					
使用テキスト: なし				その他参考文献など: 新スクールソーシャルワーク論(学苑社) 山下英三郎・内田宏明・牧野晶哲編著					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 配布される資料等の紛失に注意すること。									

社会福祉学科

社会福祉 専攻

1 年

科目名: 福祉と音楽				担当教員 氏名: 加藤善之、関根双葉		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
2	1年次 後期	専門選択科目	講義	選択		
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
音楽の療法的意義を音楽療法事例、受講生自身の音楽体験レポート、さらに演習により学ぶ。また「音楽、オリジナル歌集作り」演習により人が持つ「美意識」「個別性」「スピリチュアリティ」について感じ「人と音楽」について気づきを得る。これらを通して福祉現場に音楽の活用を推進する支援者をを目指す。					<ul style="list-style-type: none"> ・音楽療法 ・美意識 ・個別性 ・体験 ・スピリチュアリティ 	
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 7.		
A 知識・理解力		音楽療法事例から対象者にとり音楽の療法的意義を理解する。				
B 専門的技術		「美意識」が人の心を高めるプロセスを体験する。				
A 知識・理解力		音楽、花、自然が人に及ぼす影響について感じ考える。				
H コミュニケーション力		言葉を介さないコミュニケーションを体験する。				
G 倫理観		「生命」について考える。				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト:	%	レポート:	%	発表:	%	実技試験: %
【関根】レポート 40%、発表 30%、その他 30% ①「レポート」はテーマ「自分と音楽」「履修の学び」である。 ②「発表」は音楽演習時の集中・意欲とする。 ③「その他」は授業への取り組み度とする。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: レポート:前半 発表:後半						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 【関根】全員のレポート集計により学びのテーマと関連付けて学ぶレポートはメッセージを添えて返却する。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①【加藤】音楽療法を体験する				9月25日	【事前: 授業が始まる前に】音楽療法について自分なりに調べてみる	
②【加藤】音楽療法を体験する(身近な物を楽器にしてみる)				10月2日		
③【加藤】音楽を使って関わり方を考える				10月16日		
④【加藤】メソッドを学ぶ				10月23日	【事後】毎回、授業で体験したことや感じたことを書き留める	
⑤【加藤】メソッドを学ぶ				10月30日		
⑥【加藤】メソッドの意味を考え学ぶ				11月6日		
⑦【加藤】まとめとレポート				11月13日	積極的な演習態度	
⑧【関根】音楽演習/音楽の療法的意義				12月1日		
⑨【関根】音楽演習/音楽の効果(レポートより)				12月8日		
⑩【関根】歌集作成				12月15日	思い入れのある布を準備する。	
⑪【関根】音楽療法事例/障害と音楽(失語症)				12月22日	事例に対して真摯な気持で学ぶ。	
⑫【関根】音楽療法事例/障害と音楽(発達障害)				1月5日	事例に対して真摯な気持で学ぶ。	
⑬【関根】音楽療法事例/障害と音楽(発達障害)				1月12日	事例に対して真摯な気持で学ぶ。	
⑭【関根】「人と音楽」について考える				1月19日	福祉における音楽の意義に気づく。	
⑮【関根】福祉と音楽(レポートより)				1月26日	福祉に音楽を活用推進する意欲を感じる。	
使用テキスト:				その他参考文献など:「音楽嗜好症」著:オリヴァー・サックス、「音楽療法のためのABA入門」春秋社、「老いても人として生きる全人生を高める音楽療法」著:ルース・ブライト		
【関根】演習を通して感じ気づきを学びとしますので積極的な演習態度を望みます。 歌集作成のため、材料費を500円程集金します。						

社会福祉学科

社会福祉 専攻

1 年

科目名: 健康管理学				担当教員 氏名: 成瀬 優知		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
2	1年次 後期	専門選択科目	講義	選択	健康管理士一般指導員受験資格	
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
健康を維持するために必要な健康管理法について学ぶ					健康 健康管理	
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 6. 9		
A 知識・理解力		1. 健康の意義を知り、健康づくりについて理解することができる。 2. 健康を維持するための対策について理解することができる。				
B 専門的技術		健康管理に必要な基礎技術を習得する。				
E 自己管理能力		自らの健康管理に留意して行動できる。				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 50 %	レポート: 30 %	発表: %	実技試験: %	その他: 20 %		
特記事項: 本科目はアクティブ・ラーニングとしてグループ学習や発表を通し健康管理について学ぶことを狙いと している。テスト:50%は、資格試験を踏まえた各単元の要点を問う筆記試験を行い、レポート:30%は、健康管 理に関する知識の理解度を評価する。その他:20%では、授業への取り組み姿勢を評価する。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 各単元毎に課題の提出があり、第15回は、まとめと筆記試験を行 う。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック:						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①健康の概念				事前:教科書の該当部分を読んでくる。 事後:単元毎に要点を整理する。		
②保健統計(衛生統計)				事前:教科書の該当部分を読んでくる。 事後:単元毎に要点を整理する。		
③疫学				事前:教科書の該当部分を読んでくる。 事後:単元毎に要点を整理する。		
④健康阻害因子				事前:教科書の該当部分を読んでくる。 事後:単元毎に要点を整理する。		
⑤保健分野における国際協力				事前:教科書の該当部分を読んでくる。 事後:単元毎に要点を整理する。		
⑥健康づくり運動				事前:教科書の該当部分を読んでくる。 事後:単元毎に要点を整理する。		
⑦わが国の健康増進対策				事前:教科書の該当部分を読んでくる。 事後:単元毎に要点を整理する。		
⑧健康なときの心掛け(体の症状チェック)				事前:教科書の該当部分を読んでくる。 事後:単元毎に要点を整理する。		
⑨健康なときの心掛け(体のチェック)				事前:教科書の該当部分を読んでくる。 事後:単元毎に要点を整理する。		
⑩健康診断の利用				事前:教科書の該当部分を読んでくる。 事後:単元毎に要点を整理する。		
⑪検査項目と基準値				事前:教科書の該当部分を読んでくる。 事後:単元毎に要点を整理する。		
⑫新しい健康診断				事前:教科書の該当部分を読んでくる。 事後:単元毎に要点を整理する。		
⑬上手な医療施設の選び方				事前:教科書の該当部分を読んでくる。 事後:単元毎に要点を整理する。		
⑭治療を助ける医療制度				事前:教科書の該当部分を読んでくる。 事後:単元毎に要点を整理する。		
⑮まとめ						
使用テキスト: 健康管理士一般指導員テキスト(テキスト1)日本 成人病予防協会発行				その他参考文献など: 適宜紹介する。		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 健康に関する情報に日頃から関心を持ち、新聞やインターネット等を用いて調べておく。						

社会福祉学科

社会福祉 専攻

1 年

科目名：生活習慣病の基礎知識					担当教員 氏名：成瀬 優知	
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	1年次	後期	専門選択科目	講義	選択	健康管理士一般指導員受験資格
授業科目の学習教育目標の概要：					キーワード	
生活習慣と疾病との関係を理解し、その予防について学ぶ。					生活習慣病、肥満、糖尿病、高脂血症、高血圧、虚血性心疾患、がん	
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福祉マトリックスで示される番号)		1. 2. 6. 9. 10	
A 知識・理解力			生活習慣病とその予防策について理解し、健康管理を行うための基礎知識を得る			
C 論理的思考力			生活習慣病について客観的に理解できる。			
D 問題解決力			生活習慣病についての知識を予防に役立てることができる。			
E 自己管理能力			自らの健康管理に留意して行動できる。			
成績評価の基準と方法：以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： 80 %	レポート： %	発表： %	実技試験： %	その他： 20 %		
特記事項：【原】の授業では、前回行った授業内容の試験を授業開始時に毎回行う。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：詳細はガイダンスで説明する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：						
授 業 計 画					事前・事後の学習課題	
①生活習慣病について					事前:教科書を読む 事後:①の復習	
②糖尿病(糖尿病とは、糖尿病の種類、糖尿病の症状)					事前:教科書を読む 事後:②の復習	
③糖尿病(糖尿病の早期発見、糖尿病の合併症、糖尿病の治療)					事前:教科書を読む 事後:③の復習	
④高血圧(心臓の動きと働き、血圧について、高血圧と動脈硬化、高血圧の治療と予防)					事前:教科書を読む 事後:④の復習	
⑤虚血性心疾患(狭心症と心筋梗塞、虚血性心疾患の治療と予防)					事前:教科書を読む 事後:⑤の復習	
⑥肥満(肥満の種類、肥満の判定法、肥満の症状と病態、肥満の治療)					事前:教科書を読む 事後:⑥の復習	
⑦高脂血症(高脂血症とその原因、高脂血症の診断と治療):まとめ					事前:教科書を読む 事後:⑦の復習	
⑧がん(腫瘍とは、良性腫瘍と悪性腫瘍)					事前:教科書を読む 事後:⑧の復習	
⑨がん(がんの転移、がんの原因と発生メカニズム、日本のがんの動向)					事前:教科書を読む 事後:⑨の復習	
⑩脳卒中(脳卒中の種類と症状、脳卒中の対処法、脳卒中の診断、治療と予防)					事前:教科書を読む 事後:⑩の復習	
⑪肝臓病(肝臓の構造と働き)					事前:教科書を読む 事後:⑪の復習	
⑫肝臓病(肝臓の諸疾患(肝炎、脂肪肝、肝硬変、アルコール性肝障害))					事前:教科書を読む 事後:⑫の復習	
⑬痛風(高尿酸血症と痛風、痛風の原因、痛風の症状と経過、痛風の治療と予防)					事前:教科書を読む 事後:⑬の復習	
⑭骨粗鬆症(骨の構造と働き、骨粗鬆症の原因、骨粗鬆症の診断と治療)					事前:教科書を読む 事後:⑭の復習	
⑮アレルギー(免疫のしくみとアレルギー、アレルギーのメカニズム、アレルギーの原因、アレルギーの治療):まとめ					事前:教科書を読む 事後:⑮の復習	
使用テキスト： テキスト2 健康管理士一般指導員テキスト「生活習慣病の基礎知識」					その他参考文献など：	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： 講義の前には教科書を読んでおいて下さい。						

社会福祉学科

社会福祉 専攻

1 年

科目名：生活を守る栄養学				担当教員 氏名：炭谷靖子、村井嘉寛、北濱まさみ、蘭 直美	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	1年次 後期	専門選択科目	講義	選択	健康管理士一般指導員受験資格
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード
健康を維持するために、適切な栄養摂取とその代謝について学ぶ					栄養・健康・食生活
授業科目の到達目標					
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 6. 8. 9	
A 知識・理解力	健康を維持するためバランスのとれた食事摂取することを理解し、栄養素の重要性を習得する				
C 論理的思考力	食生活と密接に関わる健康障害を検証し、健康管理に必要な食事バランスを考察する				
D 問題解決力	年代や病気と栄養の関連性を理解し、対象に応じた健康増進のための食事摂取基準を習得する				
E 自己管理能力	健康づくりのための食生活指針を理解し、自分の食事バランスガイドを振り返り評価、改善することを身につける				
H コミュニケーション力	福祉・介護における栄養アセスメントを理解し、ライフステージごとの栄養管理の考え方と手法を学ぶ				
成績評価の基準と方法：以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト： 80 %	レポート： 10 %	発表： %	実技試験： %	その他： 10 %	
特記事項：その他では、授業態度、遅刻や欠席などを総合的に判断する。					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：試験、レポートについては後日、返却する。					
授 業 計 画			日付	事前・事後の学習課題	
①【炭谷】第1章栄養と健康 (健康寿命と食)			9月28日	【事前】教科書のチェック【事後】栄養素資料確認	
②【炭谷】第1章栄養と健康 (統計から読み取る日本人の食生活)			10月5日	【事前】教科書のチェック【事後】栄養素資料確認	
③【炭谷】第1章 栄養と健康			10月12日	【事前】教科書のチェック【事後】栄養素資料確認	
④【炭谷】第2章 栄養学の基本			10月19日	【事前】教科書のチェック【事後】代謝の資料確認	
⑤【村井】第2章 非栄養素とその働き			10月26日	【事前】教科書のチェック【事後】代謝の資料確認	
⑥【村井】第3章 生活習慣病を予防する栄養学			11月2日	【事前】教科書のチェック【事後】配布資料確認	
⑦【村井】第4章 時間栄養学			11月9日	【事前】教科書のチェック【事後】配布資料確認	
⑧【北濱】第5章 ライフステージ別栄養学①			11月16日	【事前】教科書のチェック【事後】配布資料確認	
⑨【北濱】第5章 ライフステージ別栄養学②			11月30日	【事前】教科書のチェック【事後】配布資料確認	
⑩【蘭】第6章 病気と健康①			12月7日	【事前】教科書のチェック【事後】配布資料確認	
⑪【蘭】第6章 病気と健康②			12月14日	【事前】教科書のチェック【事後】配布資料確認	
⑫【蘭】第7章 食育			12月21日	【事前】教科書のチェック【事後】配布資料確認	
⑬【蘭】第8章 健康食品			1月11日	【事前】教科書のチェック【事後】配布資料確認	
⑭【蘭】第9章 食の安全			1月18日	【事前】教科書のチェック【事後】配布資料確認	
⑮【炭谷】まとめ			1月25日	【事前】教科書のチェック【事後】栄養学全体の復習	
使用テキスト：健康管理士一般指導員テキスト(日本成人病予防協会発行)				その他参考文献など：	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： 自分自身の健康管理も含め、健康に暮らすための知識と技術を深めましょう。					

社会福祉学科

社会福祉 専攻

1 年

科目名: 臨床美術				担当教員 氏名: 北澤 晃、岡野 宏宣	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	1年次 後期	専門選択科目	演習	選択	臨床美術士5級
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード
右脳の活性化と認知症予防の関係を知り、他者との関係を深めるコミュニケーション空間をつくり出し、美術療法の技術を用いて生き生きとした活動を設定する力を身に付ける。また、主体的にロールプレイングなどアクティブ・ラーニングすることによって福祉施設などで活動する実践力を身に付ける。					・臨床美術 ・右脳の活性化 ・認知症 ・コミュニケーション ・量感画
授業科目の到達目標					
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 5. 6. 8.	
A 知識・理解力	右脳の活性化と認知症について理解することができる。				
B 専門的技術	状況や関係を把握して量感画などで表す基本的技術を習得する。				
D 問題解決力	「ひと・こと・もの」に働きかけ、豊かに表現活動の場を設定するために、情報を収集・分析・整理し、目的に応じた活動案が作成できる。				
F チームワーク・リーダーシップ	リーダー・サブリーダーなどの役割を理解しチームに参画することができる。				
H コミュニケーション力	造形を通して具体的に他者を理解しコミュニケーションをすることを通して、他者に共感でき、相手の立場に立って考える事ができる姿勢を身につける。				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト: 0 %	レポート: 30 %	発表: 30 %	実技試験: 30 %	その他: 10 %	
<p>特記事項:</p> <p>事前課題作品は100%の提出とする。欠席した場合、授業内で制作した作品及び講義内容に関する課題を課す。成績評価のレポートは事前課題の提出。発表は授業内の発言。実技試験はロールプレイングの理解と実践力。その他は積極性を指す。</p> <p>本科目ではアクティブ・ラーニングの一環として福祉施設などを想定して学生同士におけるロールプレイングを行います。準備物: 毎回の授業に持参してください。・ハサミ、スティック糊、割り箸ペン、新聞紙(朝刊1日分)、ウェットティッシュ、クロッキー帳鉛筆2Bか4B</p> <p>テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 発表・実技は毎時間毎に実施する。</p> <p>課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 課題提出時に振り返りのコメントを伝える。</p> <p>使用テキスト: 『臨床美術士養成講座5級』, 芸術造形研究所 『臨床美術-痴呆治療としてのアートセラピー』, 芸術造形研究所</p> <p>その他参考文献など:</p> <p>受講上の留意点(担当者からのメッセージ): ・本科目は一日に2コマや3コマ続けて行う科目になります。また開講日時も不規則なため、授業日をよく確認してください。 ・オイルパステルの特性を知り、自分自身が楽しめるようになるために、継続的に描き続けてみる必要があります。</p>					
授 業 計 画				準備物/事前・事後の学習課題	
回数					
	【岡野】授業ガイダンス			10月2日	
1	【北澤】臨床美術基幹 I -①			10月16日 事前課題: 自己紹介文(ガイダンスで配布)	
2	【北澤】臨床美術基幹 I -②			10月16日	
3	【岡野】臨床美術入門 I「五感のアナログ画」			10月23日	
4	【岡野】臨床美術入門 I「りんごの量感画」			10月23日	
5	【北澤】臨床美術入門 I「立体かぼちゃ」①			10月30日	
6	【北澤】臨床美術入門 I「立体かぼちゃ」②			10月30日 準備物: 作品を持ち帰るための袋	

※前ページよりつづき

社会福祉学科

社会福祉 専攻

1 年

科目名: 臨床美術		担当教員 氏名: 北澤 晃、岡野 宏宣	
7	【岡野】臨床美術実践の基礎「りんごの模刻」	11月6日	事前課題:りんごの量感画 準備物:りんご1個、雑巾
8	【岡野】臨床美術実践の基礎「りんごの量感画」	11月6日	
9	【北澤】存在論的人間観	12月4日	
10	【北澤】臨床美術コミュニケーションⅠ 「私の感性地図」「鑑賞会」	12月4日	事前課題:私の感性地図・りんご以外の量感画
11	【岡野】臨床美術コミュニケーションⅠ 「アナログ画①」	12月11日	事前課題:アナログ日記① 準備物:鉛筆(2Bか4B) 事前課題:書籍『臨床美術』の感想文
12	【岡野】臨床美術コミュニケーションⅠ 「アナログ画②」	12月11日	
13	【北澤】臨床美術コミュニケーションⅠ 「現場セッションについて」	12月18日	
14	【岡野】臨床美術実践の基礎 「ロールプレイングに向けて試作」	1月15日	準備物:さつま芋(紫芋以外で) 和紙セット(試作で使用) 事前課題 ・修正輪郭画 ・ゴッホの素描 ・りんごを描く 4種
15	【岡野】臨床美術実践の基礎 「ロールプレイングに向けてリハーサル」	1月15日	
16	【岡野】臨床美術実践の基礎 「ロールプレイング①」	1月22日	準備物:さつま芋1個+α
17	【岡野】臨床美術実践の基礎 「ロールプレイング②」	1月22日	
18	【岡野】臨床美術実践の基礎 「総括」	1月29日	事前課題:アナログ日記② 準備物:臨床美術協会資格認定申請書 (課題をすべて提出している方)
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			

社会福祉学科

社会福祉 専攻

1 年

科目名: 表現アート演習 I				担当教員 氏名: 北澤 晃		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
1	1年次 後期	専門選択科目	演習	選択		
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
表現アート演習では、他者とのコミュニケーションの場におけるアートの働きを「きとときとアート塾」の運営・実践を通じたアクティブラーニングによって学んでいく。主に色鉛筆やオイルパステルなどの描材の習熟を通して、表現の楽しさについての自己の概念を捉えなおす。また、各課題終了後に表現のプロセスを振り返り、自己・他者の気づきの共有を図ることで実践的な理解を深める。					<ul style="list-style-type: none"> ・表現アート・臨床美術 ・コミュニケーション ・自己意識と他者 ・鑑賞 	
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 7. 8.		
A 知識・理解力	コミュニケーションとしての表現アートの基礎について理解することができる。					
B 専門的技術	色鉛筆・オイルパステルを中心画材として楽しんで表現する。					
D 問題解決力	本科目で経験した表現アートの内容、プロセス、気づきなどに関してまとめ、学びを整理して記述し、実践に生かすことができる。					
H コミュニケーション力	表現アートの活動に取り組むなかで、自己への理解を深めつつ、他者を理解をしようとする姿勢をもつ。					
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: %	レポート: 70 %	発表: 20 %	実技試験: %	その他: 10 %		
特記事項: 『レポート 70%』は、各課題の学びをまとめたファイル(ポートフォリオ)である。『発表 20%』は、各回の授業等における各自の振り返りのコメントである。『その他 10%』は演習への取り組み状況である。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 各課題ごとに学びを整理・記録したファイルを作成し⑭の授業にて提出。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 毎回の授業においてコメントする。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①【ガイダンス】(表現アート演習の科目の学習目標、学習内容について、試作)			9月29日	振り返りとポートフォリオ作成		
②脳機能の局在論/多重知能理論/意識の構造モデルと身体性			10月6日	振り返りとポートフォリオ作成		
③きとときとアート塾実施ガイダンス/小学校の造形遊びビデオ『いいとこ見つけた』(学校教育と臨床美術)			10月13日	振り返りとポートフォリオ作成		
④きとときとアート塾4の実施			10月20日	振り返りとポートフォリオ作成		
⑤臨床美術の入門 I			10月27日	振り返りとポートフォリオ作成		
⑥相互行為分析/ビデオ記録「粘土と友だち」			11月10日	振り返りとポートフォリオ作成		
⑦きとときとアート塾5の実施			11月17日	振り返りとポートフォリオ作成		
⑧臨床美術の入門 II			12月1日	振り返りとポートフォリオ作成		
⑨ナラティブ・アプローチと臨床美術			12月8日	振り返りとポートフォリオ作成		
⑩きとときとアート塾6の実施			12月15日	振り返りとポートフォリオ作成		
⑪きとときとアート塾の振り返り/プログラムアート研究 I			12月22日	振り返りとポートフォリオ作成		
⑫プログラムアート研究 II			1月5日	振り返りとポートフォリオ作成		
⑬プログラムアート研究 III			1月12日	振り返りとポートフォリオ作成		
⑭自己の学びの総括(発表)			1月19日	振り返りとポートフォリオ作成		
⑮授業の振り返りと総括			1月26日	振り返りとポートフォリオ作成		
使用テキスト: 北澤晃『造形遊びの相互行為分析 他者との交流の世界をひらく意味生成カウンセリング』せせらぎ出版※謹呈す				その他参考文献など: 浜田寿美男『意味から言葉へ』ミネルヴァ書房		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 【実習費】一人3,000円(第2回目に徴収します。)18色の色鉛筆とオイルパステルは各自で用意してください。【その他】この科目は、臨床美術のアートプログラムを体験することを通して、表現アートの本質に迫ります。臨床美術士としてセッションを実施する場合、芸術造形研究所販売のアートプログラムについては、臨床美術士資格を取得後、芸術造形研究所より購入する必要があります。						

社会福祉学科

社会福祉 専攻

1 年

科目名：心理学研究法				担当教員 氏名：竹ノ山 圭二郎	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	1年次 前期	専門選択科目	講義	選択	
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード
心理学で用いられている自然科学的研究法について学び、自らの問題意識に基づいて、仮説を立て、研究をデザインするための基礎的知識を習得する。					仮説、実験、調査、サンプリング、バイアス、信頼性と妥当性
授業科目の到達目標					
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 3. 6.	
A 知識・理解力		心理学に関する基礎的知識を身に付ける。			
C 論理的思考力		人間の行動や心理について、科学的・客観的に理解するための専門的技術の基礎を身につける。			
D 問題解決力		問題に対して仮説を立て、情報を収集・分析するために必要な方法論を習得する。			
H コミュニケーション力		情報を的確にまとめ、解りやすく説明する能力を身につける。			
成績評価の基準と方法：以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト： 50 %	レポート： 30 %	発表： %	実技試験： %	その他： 20 %	
特記事項：レポート(30%)、期末試験(50%)、授業への取り組み態度(20%)に基づいて成績評価を行う。					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：詳細は初回時に説明する。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：中間期と終了時にフィードバックを行う。					
授 業 計 画			事前・事後の学習課題		
①リサーチクエスションと仮説			リサーチクエスションを立てる。		
②実験的方法と非実験的方法			研究テーマについて情報収集する。		
③研究デザイン			研究の大枠を考える。		
④神経心理学的研究法			仮説を立てる。		
⑤サンプリング法			サンプルとサンプリングを考える。		
⑥実験のバイアス			研究デザインを考える。		
⑦信頼性と妥当性			研究デザインを洗練させる。		
⑧実験の統制			レポートを提出する。		
⑨文化的バイアスと研究倫理			研究倫理について調べてまとめる。		
⑩記述統計と尺度			統計法について調べてまとめる。		
⑪推測統計の種類			記述統計と推測統計の違いについて調べる。		
⑫いろいろな検定法と検定結果の解釈			興味のある心理系論文を入手して読む。		
⑬質的データの扱い方			興味のある心理系論文を入手して読む。		
⑭研究レポートの書き方			興味のある心理系論文を入手して読む。		
⑮まとめ			総復習をする。		
使用テキスト：心理学研究法入門、アン・サール(著)、宮本聡介・渡邊真由美(訳)、新曜社				その他参考文献など：高野陽太郎(著)心理学研究法—心を見つめる科学のまなざし[有斐閣アルマ]	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)：心理学研究法を習得するためには、自らの問題意識に基づいて、研究をデザインして試みるのが最も効果的であり、議論への積極的な参加・発言を求めます。アクティブ・ラーニングで学びます。					

科目名: 心理学統計法				担当教員 氏名: 竹ノ山 圭二郎		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
2	1年次 前期	専門選択科目	講義	選択		
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
心の諸問題について収集されたデータを分析・解釈し、意味づけるための統計学的技術を習得する。					t検定、分散分析、相関分析、因子分析、 χ^2 分析	
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 5. 9.	
A 知識・理解力		心理学統計法における基礎知識を理解している。				
B 専門的技術		利用者の生活ニーズをアセスメントするための情報分析技術を身に付けている。				
C 論理的思考力		人間の行動や心理について論理的に思考する力を身に付けている。				
D 問題解決力		問題解決のために収集された情報を分析・解釈できる。				
H コミュニケーション力		情報を的確にまとめ、わかりやすく説明できる。				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 80 %	レポート: %	発表: %	実技試験: %	その他: 20 %		
特記事項:						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 詳細は初回時に説明する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 中間期と終了時に学習到達度を個別にフィードバックし、必要のある学生に対しては補習を行う。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①尺度と代表値の理解と仮説検定の考え方				代表値と仮説検定についてまとめる		
②エクセルの基本とデータ入力の基本				データ入力方法の練習		
③平均値と標準偏差の算出方法とグラフの作図				代表値の算出と作図の練習		
④t検定の考え方				t検定についてまとめる		
⑤対応のないt検定の手順				対応のないt検定の練習		
⑥対応のあるt検定の手順				対応のあるt検定の練習		
⑦一要因被験者間分散分析の手順				被験者間分散分析の練習		
⑧一要因被験者内分散分析の手順				被験者内分散分析の練習		
⑨平均値の差についての結果レポートの作成				第1回～第8回までの総復習		
⑩二要因分散分析および交互作用の考え方				二要因分散分析についてまとめる		
⑪相関分析の考え方と手順				相関分析の練習		
⑫重回帰分析および因子分析の考え方				重回帰分析・因子分析をまとめる		
⑬クロス集計表の理解と作成				クロス集計表の練習		
⑭ χ^2 乗検定の考え方と手順				χ^2 乗検定の練習		
⑮相関および名義尺度データについての結果レポートの作成				第9回～第14回までの総復習		
使用テキスト: ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法 —方法の理解から論文の書き方まで—、田中敏・山際勇一郎 (著)、教育出版株式会社				その他参考文献など: 村井潤一郎・柏木恵子(著) 「ウォームアップ心理統計[東京大学出版会]; 丸山欣哉・佐々木隆之・大橋智樹(著)学生のための心理統計法要点[おうふう]		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 統計学を学ぶには、実際にデータを自ら分析・処理してみる以外の近道はありません。自分でデータ分析を行なうアクティブ・ラーニングで学びます。事後学習での練習が大切です。						

社会福祉学科

社会福祉 専攻

1 年

科目名: 心理学基礎実験					担当教員 氏名: 竹ノ山 圭二郎	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
2	1年次 後期	専門選択科目	演習	選択		
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
心理学実験の実践を通して、仮説を立て、実験計画を立案し、データを収集・分析し、論文として報告する専門的技術を習得する。						
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		3. 6.		
A 知識・理解力		心理学実験の基礎知識を身に付ける				
B 専門的技術		心理学実験を立案・実施する専門的技術を習得する。				
C 論理的思考力		人間の行動や心理について科学的に考える思考力を身に付ける。				
D 問題解決力		問題を同定し、仮説を立て、必要な情報を収集分析し、問題を解決できる。				
H コミュニケーション力		情報を的確にまとめ、わかりやすく説明できる				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト:	%	レポート:	100 %	発表:	%	実技試験: %
				その他: %		
特記事項:						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 10種の実験それぞれにレポートを課す(10%×10)。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 実験レポートを評価し、その都度返却する。						
使用テキスト: 指定テキストはありません。関連資料を授業時に配布しますが、レポート作成に必要な資料は、自ら図書館等で収集してください。				その他参考文献など:心理学実験ノート編纂委員会(著)心理学実験ノート第5版[二瓶社];西口利文・松浦均(著)心理学基礎演習vol.1心理学実験法・レポートの書き方[ナカニシヤ出版]		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 心理学教育の中心的科目です。心理学実験を体験し、実験技術を習得することによって、心理学の知識が生きたものとなります。アクティブラーニングで学びます。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
1	心理学実験のオリエンテーション(実験の進め方・注意事項・レポートの作成方法等について)			参考文献など心理学実験について書かれた本を読む		
2	顔面フィードバック:実験の実施					
3	(1)ミュラー・リヤー錯視:実験の実施			錯視についての資料を収集し、錯視の実験レポートを作成する		
4	(1)ミュラー・リヤー錯視:データ分析					
5	レポートの作成指導			錯視についての資料を収集し、実験レポートを修正する		
6	レポートの改稿					
7	(2)触二点閾:実験の実施			感覚測定についての資料を収集し、触二点閾の実験レポートを作成する		

※前ページよりつづき

社会福祉学科

専攻

年

科目名：心理学基礎実験		担当教員氏名：竹ノ山 圭二郎
8	(2)触二点閾:データ分析	感覚測定についての資料を収集し、触二点閾の実験レポートを作成する
9	(3)奥行き知覚:実験の実施	奥行き知覚についての資料を収集し、実験レポートを作成する
10	(3)奥行き知覚:データ分析	
11	(4)仮現運動:実験の実施	仮現運動に関する資料を収集し、実験レポートを作成する
12	(4)仮現運動:データ分析	
13	(5)心的回転:実験の実施	心的回転に関する資料を収集し、実験レポートを作成する
14	(5)心的回転:データ分析	
15	(6)印象形成:実験の実施	印象形成に関する資料を収集し、実験レポートを作成する
16	(6)印象形成:データ分析	
17	(7)記憶のメカニズム-系列位置効果:実験の実施	系列位置効果に関する資料を収集し、実験レポートを作成する
18	(7)系列位置効果:データ分析	
19	(8)無意識の情報処理:ストループ効果:実験の実施	ストループ効果に関する資料を収集し、実験レポートを作成する
20	(8)ストループ効果:データ分析	
21	(9)概念ネットワーク:プライミング効果:実験の実施	プライミング効果に関する資料を収集し、実験レポートを作成する
22	(9)プライミング効果:データ分析	
23	生理的指標(心拍)を用いた実験の概要	生理的指標を用いた実験に関する資料を収集し、実験デザインを作る
24	生理的指標(心拍)を用いた実験のデザイン	
25	(10)生理的指標(心拍):実験の実施	生理的指標を用いた実験に関する資料を収集し、実験レポートを作成する
26	(10)生理的指標(心拍):データ分析	
27	知覚と行為のアフォーダンス-「くぐり」と「またぎ」:実験の実施	アフォーダンスに関する資料を収集し、まとめる
28	知覚と行為のアフォーダンス-「くぐり」と「またぎ」:データ分析と考察	
29	パワーポイントを用いたプレゼンテーション資料作成	実験データを用いてパワーポイント・プレゼンテーション資料を作成する
30	パワーポイントを用いたプレゼンテーション技法	

社会福祉学科

社会福祉 専攻

1 年

科目名：心理学基礎実習				担当教員氏名：竹ノ山 圭二郎	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	1年次 後期	専門選択科目	演習	選択	
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード
心理学調査の技術を習得し、自ら心理学調査を立案し、データを収集・分析し、得られた成果を社会に向けて公表する力を身に付ける。					調査、心理尺度、サンプリング、信頼性と妥当性、因子分析
授業科目の到達目標					
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 6.	
B 専門的技術		心理学調査を立案・実施する専門的技術を身に付ける。			
C 論理的思考力		人間の行動や心理について科学的に思考する力を身に付ける。			
D 問題解決力		問題を同定し、情報を収集・分析し、解決策を提案できる。			
F チームワーク・リーダーシップ		目標のために他者と協調し、リーダーシップを発揮することができる。			
H コミュニケーション力		情報を的確にまとめ、わかりやすく説明・報告できる。			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト:	%	レポート:	50 %	発表:	50 %
				実技試験:	%
				その他:	%
特記事項: 調査計画発表(25%)と調査結果発表(25%)および調査結果のレポート(50%)に基づいて成績評価を行う。					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 発表は第8回と第15回に行う。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 中間期と期末にフィードバックする。					
授 業 計 画			事前・事後の学習課題		
①心理学基礎実習のオリエンテーション(実習の進め方等について)			演習科目のため指定なし		
②心理学調査法1(データ収集の方法)					
③心理学調査法2(質問紙の作成法)					
④心理学調査法3(結果の処理方法)					
⑤心理学調査の計画立案					
⑥文献調査					
⑦心理学調査計画発表の準備					
⑧心理学調査計画発表					
⑨予備調査の準備					
⑩予備調査の実施					
⑪質問紙の作成					
⑫心理学調査の実施					
⑬調査結果の分析					
⑭調査結果発表の準備					
⑮調査結果の発表					
使用テキスト: テキストは不要。必要な資料等は授業時に提供します。				その他参考文献など: 鎌原・宮下・大野・中澤(編)心理学マニュアル質問紙法[北大路書房]	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): グループで協力して、自分たちの問題意識に基づいて、心理学的な調査計画を立案し、実際に実施してデータを収集し、結果を分析・報告します。グループへの貢献度も発表の評価対象に含まれますので、積極的に参加してください。アクティブ・ラーニングで学びます。					

社会福祉学科

社会福祉 専攻

1 年

科目名: カウンセリング基礎理論				担当教員 氏名: 石黒 真弓		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
2	1年次 後期	専門選択科目	講義	選択		
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
カウンセリングの基礎知識を学び、他者との信頼関係や他者理解を深める					カウンセリング 信頼関係	
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 6. 8. 9. 10	
A 知識・理解力		カウンセリングについて活用法を理解する。				
D 問題解決力		状況にあった解決法を身につけ、問題解決に努める。				
F チームワーク・リーダーシップ		福祉社会に生きる一員として、他者と協力し目標実現に努める。				
G 倫理観		自らを律し、他者を尊重する倫理観を身につける。				
H コミュニケーション力		言語以外でも他者理解を深めるスキルを身につける。				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: %	レポート: 40 %	発表: 30 %	実技試験: %	その他: 30 %		
特記事項:						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック:コメントを書いて返却致します。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①ソーシャルワークとカウンセリング				カウンセリングの重要性を整理		
②カウンセリングとは?				専門用語を確認しよう		
③心を育てるとは?						
④カウンセリング概論まとめとレポート実施				カウンセリングについてまとめる		
⑤カウンセリングマインド				各マインドについて復習しよう		
⑥個別カウンセリング						
⑦集団教育カウンセリング				個別カウンセリングとの違い整理		
⑧カウンセラーとしての心がまえとまとめ(レポート実施)						
⑨グループエンカウンター(1)				実施要項を整理しよう		
⑩グループエンカウンター(2)				実施要項を整理しよう		
⑪グループエンカウンター(3)				実施要項を整理しよう		
⑫カウンセリングと心理療法				双方の違いについて復習しよう		
⑬カウンセリングと心理療法				双方の違いについて復習しよう		
⑭まとめ						
⑮総括とレポート実施						
使用テキスト:				その他参考文献など: カウンセリングの理論		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):						

科目名： 心理検査法				担当教員 氏名： 竹ノ山 圭二郎		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
2	1年次 後期	専門選択科目	講義	選択		
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
心理検査の基礎を学び、人間の多様な心理を客観的に根拠をもって理解するための技術の基礎を習得し、自らを客観的に捉える力を養う。					知能検査、発達検査、脳機能検査、性格検査	
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 6.		
A 知識・理解力		心理検査の基礎知識を身に付けている。				
B 専門的技術		心理検査の技術の基礎を習得し、利用者をアセスメントする技術の基礎を身に付けている。				
C 論理的思考力		人間の行動や心理について科学的、客観的に理解できる。				
E 自己管理能力		自己を客観的に見つめ理解し、自らを律することができる。				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 40 %	レポート: 40 %	発表: %	実技試験: %	その他: 20 %		
特記事項:						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 詳細は初回時に説明する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 中間期と期末にフィードバックする。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①心理検査実施時の注意事項、倫理規定および報告書の書き方。				心理・福祉における倫理規定を調べる。		
②知能検査1:ビネー式知能検査				ビネー式知能検査についてまとめる。		
③知能検査2:ウェクスラー式知能検査				ウェクスラー式知能検査についてまとめる。		
④知能検査3:その他の知能検査				知能検査について復習する。		
⑤性格検査1:質問紙法検査				質問紙法性格検査についてまとめる。		
⑥性格検査2:投影法検査				投影法性格検査についてまとめる。		
⑦性格検査3:作業検査法検査				作業検査法性格検査についてまとめる。		
⑧知能検査と性格検査のまとめ				レポートをまとめる。		
⑨乳幼児の発達に関する検査				発達検査についてまとめる。		
⑩行動・社会性に関する検査および親子関係に関する検査				行動・社会性に関する検査についてまとめる。		
⑪言語発達に関する検査				失語症検査についてまとめる。		
⑫知覚・感覚に関する検査				知覚に関する検査についてまとめる。		
⑬記憶に関する検査				記憶検査についてまとめる。		
⑭高次脳機能検査				高次脳機能検査についてまとめる。		
⑮全体のまとめ				総復習をする。		
使用テキスト: テキストなし。必要な資料等は講義時に配布する。				その他参考文献など: 松原達哉(編)心理テスト法入門第4版—基礎知識と技法習得のために—[日本文化科学社]		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 心理・福祉の領域で用いられている各種心理検査について学び、体験しながら、心理アセスメントの基礎を学びます。体験学習によるアクティブ・ラーニングで学びます。						

社会福祉学科			社会福祉		1年	
科目名: 人間関係論				担当教員 氏名: 尾山 敦子、長島 裕美		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
2	1年次 前期	総合選択科目	講義	選択	交流分析士2級受験資格	
授業科目の学習教育目標の概要:				キーワード		
・人間関係論は、人間性心理学(交流分析)を中心に学習し、講座を通じて「自他を受け入れ認められる人」「人と親密に係ることができる人」を目指す。 ・自己のパーソナリティの認識と改善、他者への気づきと円満な対応、状況と相手に相応しい対話選択、効果的なストローク(ふれ合い)交換、自己の感情や行動の傾向に気づいて改善する。 交流分析スローガン「人は誰でもOKである。過去と他人は変えられない。変えられるのは未来と私。自分が変われば相手が変わる。」				・人間性心理学 ・人間力 ・交流分析(TA) ・エゴグラム ・パーソナリティ理論 ・コミュニケーション法 ・対話・傾聴・ストローク		
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 6. 7. 8. 9. 10		
A 知識・理解力	自己のパーソナリティ認識と成長法					
E 自己管理能力	人生の構えのゆらぎと改善、人生脚本の書き換え等					
F チームワーク・リーダーシップ	自他のパーソナリティを認識した係り方・対話パターン(傾聴法、アサーション、ロールレタリング含む)・ストローク授受の改善					
G 倫理観	自他受容(人は誰でもOKである。人は誰でも考える力をもっている。)					
H コミュニケーション力	エゴグラム分析、対話パターンの改善、ストローク授受の改善					
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 90 %	レポート: %	発表: %	実技試験: %	その他: 10 %		
特記事項: アクティブラーニングの一環としてグループワーク、発表を行なう。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 7回目に中間テストを実施する。14回目授業で期末テストを実施する。(テスト・レベルは上述の到達目標による。)						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: テストについては次回にフィードバックをし、確実な講義内容の修得と、支援活動における実践力養成につなげる。なお希望者には随時個別面談を行う。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①【尾山】人間関係論とは何か 人間関係論の必要性と目的 自己紹介(グループワーク)						
②【尾山】自我状態とは何か 自我状態の構造分析				【事前】テキストの該当箇所を読む 【事後】復習		
③【尾山】「今、ここ」でのパーソナリティ(自我状態の機能分析その1)				【事前】テキストの該当箇所を読む 【事後】復習		
④【尾山】「今、ここ」でのパーソナリティ(自我状態の機能分析その2 エゴグラム心理分析)				【事前】テキストの該当箇所を読む 【事後】復習		
⑤【尾山】「今、ここ」でのパーソナリティ(自我状態の機能、肯定的側面と否定的側面)				【事前】テキストの該当箇所を読む 【事後】復習		
⑧【尾山】自我状態の改善による自他への肯定的人間関係の構築				【事前】テキストの該当箇所を読む 【事後】復習		
⑦【尾山】人間関係論の概要と自我状態のまとめ 中間テスト				【事前】テキストの該当箇所を読む 【事後】復習		
⑧【尾山】中間テストのフィードバックと対話分析その1 対話分析とは何か				【事前】テキストの該当箇所を読む 【事後】復習		
⑨【長島】対話分析その2 刺激と反応による対話の三つのパターン				【事前】テキストの該当箇所を読む 【事後】復習		
⑩【尾山】対話分析その3 対話パターンの改善と支援活動における事例研究				【事前】テキストの該当箇所を読む 【事後】復習		
⑪【尾山】ストロークとは何か その重要性と効果・ストロークの種類				【事前】テキストの該当箇所を読む 【事後】復習		
⑫【尾山】ストローク経済の法則とディスカウント				【事前】テキストの該当箇所を読む 【事後】復習		
⑬【尾山】ストロークの授受の改善(アクティブリスニングトレーニング)				【事前】テキストの該当箇所を読む 【事後】復習		
⑭【尾山】ストロークのまとめと期末テスト						
⑮【尾山】期末テストのフィードバック、人間関係論のゴール「自律性の獲得」と支援活動の在り方				【事前】テキストの該当箇所を読む		
使用テキスト: 「交流分析士2級テキスト」「交流分析士2級 TA シート」(NPO 法人日本交流分析協会発行)、プリント				その他の参考文献など: TA TODAY 最新・交流分析入門 I・スチュアート 著 V・ジョインズ 著(実務教育出版)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 「自分を受け入れ、人をも受け入れることができる人」「自他のパーソナリティを認識し、それにふさわしい対応ができる人」を目指す。人にとって人間性豊かな係わりは、何物にも代え難く有り難い励ましである。人間関係論は、今後の人生を通じて、色々な場面で、いつも役に立つ。人間関係論(交流分析)は心理カウンセラーへの導入路でもある。「人間関係論」と後期の「コミュニケーション論」の両方を受講した人には、2月頃実施のNPO法人日本交流分析協会「2級交流分析士」(登録商標)の受験資格が与えられる。						

社会福祉学科

社会福祉 専攻

1 年

科目名：福祉の人間学				担当教員 氏名：竹ノ山圭二郎、 社会福祉学科教員	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	1年次 前期	総合必修科目	講義	必修	
授業科目の学習教育目標の概要：					キーワード
「人間性に対する深い洞察を養い、福祉の意味をたずね、それによって人間への愛情と社会を見る目が育てられる。」(阿部志郎) これがこの授業の目的です。互いに支え合い共感し合う人間理解を深めたいものです。自己を見つめ、人間を理解し、各自がそれぞれの「人間観」を確立するのを援助する。					・人間理解 ・人権(擁護) ・倫理綱領 ・「福祉は人なり」
授業科目の到達目標					
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 4. 5. 6. 10	
A 知識・理解力	人間性の理解を深める、福祉と人権獲得に貢献した先輩の努力を知る、				
B 専門的技術	差別された人びとのニーズを受けとめ共感・援助できる				
C 論理的思考力	人間のニーズを総合的に理解し、論理的に説明できる。福祉の意義を自分の言葉で説明できる				
G 倫理観	福祉専門職の倫理綱領を理解し、確信を持って人権を擁護するために倫理的に行動できる。				
H コミュニケーション力	感じたことや考察したことを自分の言葉で分かりやすく表現・記述できる。				
成績評価の基準と方法： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト： %	レポート： 90 %	発表： %	実技試験： %	その他： 10 %	
特記事項：					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：毎回、意見、感想を書いてもらいます。レポート試験を実施します。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：評価をつけて返却します。					
授 業 計 画				【講師】日付	事前・事後の学習課題
① オリエンテーション(全担当教員)				【全員】4/4	※毎回、人物を事前に調べたり復習を行うこと
② 社会変革を目指したジェーン・アダムス				【松尾】4/11	
③ 「自由に結婚できるようになった背景を学ぶ」 ベアテ・ゴードン				【松尾】4/18	
④ 「人間の成長力を信じぬく」 カール・ロジャース				【竹ノ山】5/2	
⑤ 「戦国大名にみられる福祉政策」～福祉ヒストリア～				【鷹西】5/9	
⑥ 「互酬性の考え方」～映画：海難1890から学ぶ～				【鷹西】5/16	
⑦ 「コレラの流行を止めた新たな考え方」ジョン・スノウ				【成瀬】5/23	
⑧ 「児童福祉の父」石井十次				【韓】5/30	
⑨ 「障害者自立支援の運動の立役者」エド・ロバーツ				【韓】6/6	
⑩ 「ケアの本質」ミルトン・メイヤロフの言葉から考える				【毛利】6/13	
⑪ 認知症利用者の可能性を広げる「ケアニン」				【毛利】6/20	
⑫ 「ゾーマライゼーションの父」バンク・ミケルセン				【宮嶋】6/27	
⑬ 「ケースワークの母」メリー・リッチモンド				【宮嶋】7/4	
⑭ 「5つの顔をもつ」ナイチンゲール				【宮城】7/11	
⑮ 「福祉の心」マザーテレサ				【宮城】7/18	
上記の順番や内容は都合により変更することがある。					
使用テキスト：				その他参考文献など： 授業中に随時紹介します。	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)：「福祉は人なり」との言葉の意味を噛みしめてください。福祉に「命」を吹き込むのはあなたです。共感と思いやりをもって、人を理解し援助できるようになることを期待します。					

社会福祉学科

社会福祉

1年

科目名：地域づくりかえ学					担当教員氏名：川目 俊哉、北澤 晃、宮嶋 潔、他	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
1	1年次 前期	総合必修科目	講義	必修		
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
主体的に地域の課題を学び、その解決のために必要な目標を設定し、具体的に「ひと・こと・もの」(地域社会)に関わる行動に移し、自身を「つくり、つくりかえ、つくる」実践力を高める。					教育目標「つくり、つくりかえ、つくる」、「私」宣言、地域社会に生きる「私」、実践躬行	
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 7. 8. 10.		
D 問題解決力		問題を同定し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を解決できる。				
E 自己管理能力		地域社会の「ひと、こと、もの」に働きかけ自己を律して行動できる。				
G 倫理観		自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる。				
F チームワーク・リーダーシップ		【市民としての社会的責任】義務と権利を適正に行使しつつ、地域社会に生きる「私」になる				
C 論理的思考力		【生涯学習力】自ら設定した目標(『私』宣言)に対して、それを行動に移し、「つくり、つくりかえ、つくる」の実践力を持つ。				
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: %	レポート: 33 %	発表: %	実技試験: %	その他: 67 %		
特記事項: 「つくりかえレポート」と年間の「週フォリオ」を含めた様々な問題への取り組み状況によって評価する。各AD教員が、AD学生の評価にあたる。「つくりかえレポート」100点満点+「週フォリオ」100点満点評価+「自分づくりをすすめる意欲・態度」100点満点評価の合計を3で割った平均を評価点とする。 本科目は、アクティブラーニングの一環として、前期中にボランティア活動を各学生1回以上行い、後期の「親学」にて活動発表を行う。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:「つくりかえ問題解決技法レポート」は第7回に課す。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック:レポートはコメントと評価をつけて返却する。						
授 業 計 画					事前・事後の学習課題	
①【学科】建学の精神、5S活動、きとときコミュニティ・サポーターとしての社会貢献			4月4日	各テーマに応じて適宜連絡する。		
②【川目・北澤】地域で活躍できる育成人材像とそのための独自の教育方法			4月11日			
③【宮嶋】ボランティア活動で自分発見			4月18日			
④【特別講義】地域福祉について学ぶ			6月27日			
⑤【特別講義】認知症サポーター養成研修			7月4日			
⑥【特別講義:訪問看護ステーション】在宅ケアにおける地域課題			7月11日			
⑦【特別講義】子育て支援について学ぶ			7月18日			
⑧【学科】卒業生の「つくり、つくりかえ、つくる」に学ぶ 各学科・専攻にて実施 - 日程・詳細は後日揭示 -			7月 日			
⑨【学科】アカデミック・スキルズ 大学での学び方 各学科・専攻にて実施 - 日程・詳細は後日揭示 -			7月 日			
使用テキスト:『未来をひらく自己物語Ⅱ ナラティブ・トレーニングのすすめ』せせらぎ出版/『アカデミック・スキルズ 大学生のための知的技法入門』慶應義塾大学出版会				その他参考文献など: 「笑顔の大家族このゆびと一まれ—「富山型」デイサービスの日々」惣万佳代子 水書房		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): ・本学で大切にしている学びの基礎とあり方を追求する。積極的な「つくり、つくりかえ、つくる」を目指そう。						

社会福祉学科

社会福祉専攻

1年

科目名：親学				担当教員氏名：竹ノ山 圭二郎、毛利 亘、村田 美代子、若瀬 淳子、岡野 宏宣、藤井 徳子、宮嶋 潔		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
1	1年次 後期	総合科目	講義	必修		
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
主体的に問題を持ち、その解決のために必要な目標を設定し、具体的に「ひと・こと・もの」(地域社会)に関わる行動に移し、自身を「つくり、つくりかえ、つくる」実践力を高める。					教育目標「つくり、つくりかえ、つくる」、『私』宣言、問題解決、社会規範・ルール、義務と責任	
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリクスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 7. 8. 10		
D 問題解決力		問題を同定し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を解決できる。				
E 自己管理能力		地域社会の「ひと、こと、もの」に働きかけ自己を律して行動できる。				
G 倫理観		自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる。				
F チームワーク・リーダーシップ		【市民としての社会的責任】義務と権利を適正に行使しつつ、地域社会に生きる「私」になる				
C 論理的思考力		【生涯学習力】自ら設定した目標(『私』宣言)に対して、それを行動に移し、「つくり、つくりかえ、つくる」の実践力を持つ。				
成績評価の基準と方法： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： %		レポート： 33 %		発表： %		実技試験： %
その他： 67 %						
特記事項： 「つくりかえレポート」と年間の「週フォリオ」を含めた様々な問題への取り組み状況によって評価する。 各AD教員が、AD学生の評価にあたる。「つくりかえレポート」100点満点評価+「週フォリオ」100点満点評価+「自分づくりをすすめる意欲・態度」100点満点評価の合計を3で割った平均を評価点とする。 本科目は、アクティブラーニングの一環として、前期中に行った各学生のボランティア活動の発表を第8回目に行う。 テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：「つくりかえ問題解決技法レポート」は第6回に課す。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：評価をつけて返却します。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①【竹ノ山】親学とは				11月14日		
②【村田】親について				11月28日		
③【毛利】親学の実践：親自身が成長するために				12月5日		
④【学科・キャリア開発支援課】これからの「私」の展望(進路ガイダンス)				12月12日		
⑤【若瀬】親学の実践：子どもの人間性をはぐくむために				12月19日		
⑥【藤井】胎児期・乳児期・幼児期				1月9日		
⑦【岡野】児童期・思春期				1月16日		
⑧【宮嶋】ボランティア活動を通しての「私」の育ち(ボランティア活動発表)				1月23日		
使用テキスト： 「親学」の教科書 一親が育つ 子どもが育つー(PHP研究所)、 「親学」学習ワークブック(浦山学園出版部)				その他参考文献など： 必要な資料は、授業時に配布する		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： ・本学で大切にしている学びの基礎とあり方を追求する。積極的な「つくり、つくりかえ、つくる」を目指そう。						

社会福祉学科

社会福祉

1年

科目名：富山コミュニティー論					担当教員氏名：竹ノ山圭二郎、鷹西恒、松尾祐子 他				
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
1	1年次	後期	総合必修科目	演習	必修				
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード			
主体的に地域の課題を学び、その解決のために必要な目標を設定し、具体的に「ひと・こと・もの」(地域社会)に関わる行動に移し、自身を「つくり、つくりかえ、つくる」実践力を高める。						教育目標「つくり、つくりかえ、つくる」、「私」宣言、地域社会に生きる「私」、実践躬行			
授業科目の到達目標									
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 7. 8. 10.				
D 問題解決力			問題を同定し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を解決できる。						
E 自己管理能力			地域社会の「ひと、こと、もの」に働きかけ自己を律して行動できる。						
G 倫理観			自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる。						
F チームワーク・リーダーシップ			【市民としての社会的責任】義務と権利を適正に行使しつつ、地域社会に生きる「私」になる						
C 論理的思考力			【生涯学習力】自ら設定した目標(『私』宣言)に対して、それを行動に移し、「つくり、つくりかえ、つくる」の実践力を持つ。						
成績評価の基準と方法：以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト：	%	レポート：	60 %	発表：	%	実技試験：	%	その他：	40 %
特記事項：その他については、授業への積極的な取り組みとグループへの貢献度によって評価する。									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：適宜フィードバックする。									
授 業 計 画					事前・事後の学習課題				
①【各学科】学修の進め方、地域社会に生きる「私」をつくる					演習科目のため特に指定しないが、地域課題テーマに応じて情報収集等積極的に取り組んでほしい。				
②【各学科】地域調査の基本について学ぶ									
③【AD】グループ編成、地域課題テーマの設定、情報収集、調査計画の作成									
④【AD】グループ編成、地域課題テーマの設定、情報収集、調査計画の作成									
⑤【AD】グループ編成、地域課題テーマの設定、情報収集、調査計画の作成									
⑥【AD】連携機関との打ち合わせ									
⑦【AD】調査計画の修正									
⑧【AD】地域課題の実地調査									
⑨【AD】地域課題の調査結果のまとめ									
⑩【AD】地域課題の解決策の検討									
⑪【AD】地域課題の解決策の検討									
⑫【AD】学習成果のまとめ									
⑬【AD】学習成果のまとめ									
⑭【AD】学習成果のまとめ									
⑮【全学科】学習成果報告会									
使用テキスト：					その他参考文献など：				
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： ・「地域つくりかえ学」で学んだことに基づいて地域課題に主体的に取り組む。積極的な「つくり、つくりかえ、つくる」を目指そう。									

社会福祉学科			社会福祉 専攻		1 年	
科目名：生涯スポーツ実技				担当教員 氏名： 本田 由美子		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
1	1年次 後期	総合選択科目	演習	選択		
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
実技を通して自分の身体とその健康について、理解を深めることを目標とする。課題解決に向けて、お互いにコミュニケーションをはかりながら、適切に解決する。					「向上心」 「チームワーク」 「コミュニケーション」	
授業科目の到達目標						
学習教育目標		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 5. 7. 8.		
A 知識・理解力		ゲームのルールを理解すること。				
D 問題解決力		チームやグループの編成等を行う際に、生じる課題に対応すること。				
F チームワーク・リーダーシップ		課題が生じたときに、他のメンバーとのコミュニケーションおよび調整をはかりながら、課題解決にあたること。チーム内・チーム間で協力すること。				
H コミュニケーション力						
成績評価の基準と方法： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： %	レポート： 20 %	発表： %	実技試験： 50 %	その他： 30 %		
特記事項：「成績評価の方法」欄、「その他：30%」の部分では、授業中の参加姿勢や努力を評価する。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：実技テストは実技種目の区切りで適宜実施し、最終回の授業でレポートを課す。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック： 実技テスト後、さらなる技能向上について話をする。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①授業ガイダンス				【事前①～⑮】運動習慣の確立		
②ビーチボールバレー(個人技能)				【事前】ビーチボールバレーの歴史・特性について調べる		
③ビーチボールバレー(集団技能)				【事前】ビーチボールバレーのルールを調べる		
④ビーチボールバレー(ゲーム・評価)				【事前】作戦を立てる		
⑤バドミントン(個人技能)				【事前】バドミントンの歴史・特性について調べる		
⑥バドミントン(シングルスゲーム)				【事前】バドミントンのルールを調べる(シングルス)		
⑦バドミントン(ダブルスゲーム)				【事前】バドミントンのルールを調べる(ダブルス)		
⑧バドミントン(団体戦・評価) ※中間報告				【事前】作戦を立てる		
⑨卓球(個人技能)				【事前】卓球の歴史・特性について調べる		
⑩卓球(シングルスゲーム)				【事前】卓球のルールを調べる		
⑪卓球(ダブルスゲーム・評価)				【事前】作戦を立てる		
⑫フレッシュテニス(個人技能)				【事前】フレッシュテニスの歴史・特性について調べる		
⑬フレッシュテニス(ダブルスゲーム)				【事前】フレッシュテニスのルールを調べる		
⑭フレッシュテニス(団体戦・評価)				【事前】作戦を立てる		
⑮まとめ				【事前】ルールを復習する		
使用テキスト： テキストは使用しません。				その他参考文献など： 観るまえに読む大修館スポーツルール2016 大修館書店編集部 編		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： ※授業の進行状況を見て、各回で扱う実技の内容を変更する場合があります。 ①トレーニングウェアに必ず着替えること。②室内用シューズに履き替えること。③各自体調管理に留意すること。						

科目名: 日本語表現技法					担当教員 氏名: 佐山 朋子	
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択必修/選択	備考
1	1年次	通年	専門	演習	選択	幼稚園教諭二種免許状科目(必修)
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
日本語を表現することは、自己表現することである。したがって、文章や会話を通して、自己の在りようが現れることから、適切に伝えるための日本語表現の基礎基本を学ぶとともに、他者との関係を豊かにする自己表現の態度を養う。						国語力の基礎 話す力 聴く力 ナラティブ・アプローチ(自己物語) 「つくり、つくりかえ、つくる」 プレゼンテーション
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8	
A 知識・理解力			日本語の正しい使い方を身につける。			
C 論理的思考力			言葉を客観的に理解し、正しく判断する。			
D 問題解決力			情報を的確に収集し、集めた情報を正しく分析する。			
H コミュニケーション力			言葉やジェスチャーを用いて、お互いの意志の伝達を図る。			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 50 %		レポート: 30 %		発表: 10 %	実技試験: %	その他: 10 %
特記事項: 上記「その他10%」では、授業態度、授業への積極性を評価する。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: レポート、小テストを適宜取り入れる。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 前期・後期それぞれに小テストを行い、採点返却の上、習熟度を再確認する。						
授 業 計 画				日付	事前・事後の学習課題	
①アカデミックワードと日常語・現代表記				5月2日	テキストP2, P3を読んでおく	
②誤りやすい用字用語・記号の使い方・見やすい表記				5月9日	ノート、プリントの見直し	
③敬語				5月16日	テキストP29を事前学習	
④あいまいな文・文のねじれ				5月23日	ノート、プリントの見直し	
⑤分かりやすい語順・接続表現の使い方・文末に注意する				5月30日	テキストP40, P41を事前学習	
⑥データの解釈				6月6日	テキストP21~P26を事前学習	
⑦レポートの内容と構成・注の書き方・参考文献の書き方と引用の仕方				6月13日	テキストP47, P48を仕上げる	
⑧会話の達人になるには・社会人としての会話・電話を使いこなす				6月20日	①~⑧の小テスト	
⑨(文章検) 基礎力<語彙・文法>				9月26日	プリントの見直し	
⑩(文章検) 読解力<文章構成等>				10月3日	プリントの見直し	
⑪(文章検) 作成力<表現>				10月10日	プリントの見直し	
⑫(文章検) 作成力<通信文>				10月17日	プリントの見直し	
⑬(文章検) 作成力<意見文>				10月24日	「文章検」のための小テスト	
⑭闘病記をプレゼンテーションで伝える				10月31日	闘病記を読む	
⑮闘病記をプレゼンテーションで伝える				11月7日	闘病記を読む	
使用テキスト:「文章検定公式テキスト3級」。必要に応じてプリントを配布する。①~⑧の授業で『未来をひらく自己物語 書くことによるナラティブ・アプローチ』(入学前課題図書)を参考書として使用する。					その他参考文献など: 「読むだけ小論文」樋口裕一 「<型>で書く文章論」西田みどり	
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):						

科目名: コミュニケーション論					担当教員 氏名: 経田 博子	
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	1年次	後期	総合選択科目	演習	選択	交流分析士2級受験資格
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
人の心のありようや思考・感情・行動について分析し、活用する方法を理論の学習と演習によって学ぶ。また、自分と他者のコミュニケーションパターンを理解し、交流の改善方法について学ぶ。						交流分析 交流パターン ストローク・人生脚本 マナー 自分づくり・なりたい自分
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリクスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 7. 8. 10	
A 知識・理解力			人との交流について理解する			
D 問題解決力			自分自身の心のありようについて気づく より良い自分づくりに向けて変容していく			
E 自己管理能力			1人の人間として、人とかかわることの喜びを意識する			
H コミュニケーション力			人の交流パターンを実践的に理解する			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 70 %		レポート: 20 %		発表: %	実技試験: %	その他: 10 %
特記事項: 学習教育目標は、実践的に理解することが必要であり、アクティブラーニング科目として学生が主体的に関わる意識を持つことを重視する。 上記「その他10%」では、授業での参加姿勢などを評価する。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 第8回で中間・第14回でまとめのテストを行う。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 試験・個人のレポート採点后返却。						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①コミュニケーションとは 表現すること・受け入れること 自己紹介と関わり方				事前・テキスト人生態度を読む		
②自己肯定・他者肯定 いろいろな見方・考え方(人生態度)				事後・TAシートの見直し		
③ストロークの活用 価値を認める(自我状態・ストローク・人生態度)				事前・テキスト人生態度を読む		
④OKOKの思考・感情・構造				事後・TAシートの見直し		
⑤心理ゲームとは 自分がついついしてしまうこと				事前・テキスト心理ゲームを読む		
⑥嫌な感情の減らし方				事後・TAシートの見直し		
⑦時間の構造化・中間テスト				事前・テスト範囲の復習		
⑧テストの見直し・充実した時間の過ごし方				事前・テキスト時間の構造化を読む		
⑨人生脚本分析とは・自分が良く使う言葉				事前・人生脚本を読む		
⑩自分の中にある禁止令・ドライバー				事後・TAシートの見直し		
⑪自分を止めるもの・ストッパーと許し				事前・テキスト人生脚本を読む		
⑫自分の人生脚本の見直し 傾聴と受容 共感				事前・テキスト人生脚本を読む		
⑬社会福祉にたずさわる理想の人物像と交流分析 テスト				事前・テスト範囲の復習		
⑭まとめ テストの見直し 人生脚本の見直し				事後・TAシートの見直し		
⑮自己目標 自分の強み 自分と他者の承認				事後・テキストを読む		
使用テキスト: 「交流分析士2級テキスト」(NPO法人日本交流分析協会発行) 前期の人間関係論と同じものを使用				その他参考文献など: 交流分析入門(チーム医療)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 自分やまわりの人と心地よいかかわり方ができるように、自分を成長させていく貴重な時間です。テキスト以外にシートの記入もあります。自分について考え自分を知る大切な資料となりますので、各自で管理をお願いいたします。 「人間関係論」と後期の「コミュニケーション論」の両方で40時間以上受講した人には、2月頃実施のNPO法人日本交流分析協会認定「2級交流分析士」(登録商標)の受験資格が与えられます。						

社会福祉学科

社会福祉 専攻

1 年

科目名：基礎英語				担当教員 氏名： Richard Curtis		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	1年次	前期	総合必修科目	演習	必修	
授業科目の学習教育目標の概要：						キーワード
For students to be able to hold a simple conversation, and to expand their vocabulary.						Basic English communication
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 7. 8. 10	
A 知識・理解力			Making the best use of what you have learned before plus trying to learn something new will lead to better command of the language.			
F チームワーク・リーダーシップ			Trying the best in playing your role is important in group activities.			
H コミュニケーション力			Positive attitude without being afraid of making mistakes is a MUST in building basic command of English.			
成績評価の基準と方法： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： 30 %		レポート： %		発表： 30 %		実技試験： %
						その他： 40 %
特記事項： Others will encompass classroom participation and attitude.						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期： Group activities with presentations will be assigned in each period. Schedule for assessment is shown below.						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック：						
授 業 計 画				事前・事後の学習課題		
①Getting to know each other.						
②All about you.						
③Family						
④Review week 1						
⑤Checking-in						
⑥Traveling to Hawaii						
⑦Have you ever...?						
⑧Review week 2						
⑨Talking about work						
⑩My vacation						
⑪Future events						
⑫Review week 3						
⑬Traveling to Thailand						
⑭Sickness and Health						
⑮Overall review						
使用テキスト： Talk a Lot Book1(EFL press)				その他参考文献など：		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： Everyone should expect to talk as much as they can. Hopefully we'll have fun, and your English will improve.						

社会福祉学科

社会福祉 専攻

1 年

科目名: 情報処理 I				担当教員 氏名: 中野 慎夫		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	1年次	前期	総合科目	演習	選択	
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
近年の医療・福祉の現場において、電子カルテ等をはじめとして急速に情報化が進み、情報化スキルの必要性が高まっている。この科目では、コンピュータやネットワークの基本知識を学習し、各種ソフトウェアの基本的な活用能力を演習をとおして修得する。					コンピュータ、ネットワーク、ソフトウェア、ワード、パワーポイント、エクセル	
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 8.	
A 知識・理解力			・コンピュータ、ネットワークの基礎知識、情報リテラシーを理解する。 ・Windows7の基礎知識を学習する。			
D 問題解決力			・文書作成ソフト「Microsoft Word」、プレゼンテーションソフト「Microsoft Power Point」、表作成ソフト「Excel」の基本操作を修得する。			
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: %	レポート: %	発表: %	実技試験: 50 %	その他: 50 %		
特記事項: ・上記、「その他」では授業の態度、授業中の課題演習の提出状況などで評価する。 ・目標とする活用能力の習得のためには、授業外の予習・復習が不可欠であり、アクティブ・ラーニングとして学生が主体的に関わる意識を持つことを重視する。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 授業中後半に課題演習を行う。また授業期間の中間と最後に実技試験を行う。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック: 授業中に出す演習課題については提出時に学生の前でチェックする。また実技試験については採点をして返却する。						
授 業 計 画					事前・事後の学習課題	
① コンピュータとネットワークの基礎知識の理解					【事前】インターネットについて調べる 【事後】①の復習	
② 情報システムの基礎知識の理解					【事前】情報のセキュリティについて調べる 【事後】②の復習	
③ Windows7の基礎知識と基本操作の理解					【事前】Windowsについて調べる 【事後】③の復習	
④ Wordによる文書作成(基本的な文字入力)					【事前】Word教科書を読む 【事後】④の復習	
⑤ Wordによる文書作成(案内状などの作成)					【事前】Word教科書を読む 【事後】⑤の復習	
⑥ Wordによる文書作成(表作成)					【事前】Word教科書を読む 【事後】⑥の復習	
⑦ Wordによる文書作成(高度な書式設定)					【事前】Word教科書を読む 【事後】⑦の復習	
⑧ PowerPointによる資料作成(箇条書き機能など)					【事前】PowerPoint教科書を読む 【事後】⑧の復習	
⑨ PowerPointによる資料作成(図の作成)					【事前】PowerPoint教科書を読む 【事後】⑨の復習	
⑩ PowerPointによる資料作成(プレゼン資料の作成)					【事前】PowerPoint教科書を読む 【事後】⑩の復習	
⑪ PowerPointによる資料作成(高度なプレゼン資料の作成)					【事前】PowerPoint教科書を読む 【事後】⑪の復習	
⑫ Excellによる表作成					【事前】Excell教科書を読む 【事後】⑫の復習	
⑬ Excellによるグラフ作成					【事前】Excell教科書を読む 【事後】⑬の復習	
⑭ Excellによるデータベース作成					【事前】Excell教科書を読む 【事後】⑭の復習	
⑮ Word、PowerPoint、Excellの基本操作を再確認する。					【事前】Word、PowerPoint、Excellの復習をする 【事後】⑮の復習	
使用テキスト: 「できるWord2013」、「できるPowerPoint2013」、「できるExcel2013」(インプレスジャパン)				その他参考文献など: 情報リテラシー(noa出版) Officeソフトで作る文書ドリル全55題(noa出版)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 授業での演習時間が少ないので必ず予習・復習を行うこと。						